

# 京都府地域文化創造促進事業
# 2023年度 実施報告

# 京都府地域文化創造促進事業

# 2023年度 実施報告

京都府地域文化創造促進事業
2023年度 実施報告

## 目　次


はじめに ｜ 京都府地域文化創造促進事業について …… 2
情報発信 ｜ KYOTOHOOP …… 6
地域プログラム・地域展開プロジェクト …… 10
丹後地域 …… 12
　Kaicoー参加型アートプロジェクト …… 13
　キッズワークショップ『鳥笛で探す“音のなる不思議”』 …… 25
中丹地域 …… 29
　遠回りの仕方ー準備編 …… 30
　福知山イル未来と2023 ～夜をあそぶ～ …… 39
南丹地域 …… 47
　アンサンブル探求基地 ～音楽家ヤニック・パジェ氏が奏でる音楽×物理学×陶芸?!～ …… 48
山城地域 …… 56
　アスレチック型コンサート～オーケストラで遊ぼう！～ …… 57
　宇治アートプロジェクト …… 64
次世代向け事業 …… 74
　地域・アート・出会いプロジェクト …… 75
おわりに ｜ 編集後記 …… 79
　チラシ・ポスターデザイン …… 80
　掲載記事等 …… 82

## はじめに

## 京都府地域文化創造促進事業について

Introduction

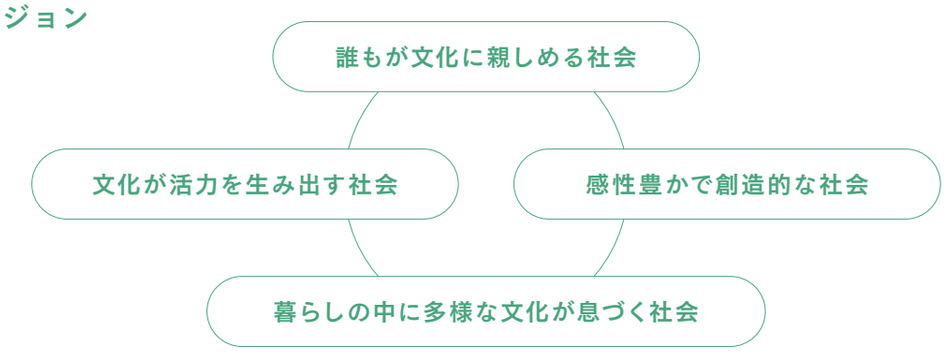
京都府地域文化創造促進事業は、南北に長い京都府において、多様な文化資源を活かした地域づくりを進めるため、各地に配置した文化芸術の専門人材を核に、2019年から展開している事業です。京都府域に根付く「人・場所・コト」の交流を促進し、アートの視点から地域の魅力を再発見する機会を創出するとともに、誰もが主体的に文化芸術活動に関わることができる環境づくり、そして、地域住民がそれぞれの居住地域に誇りと愛着を持ち、地域文化を大切にしながら、新しい文化も生まれ続けるような、文化芸術の力で地域に活力を生み出す好循環を目指して、様々な事業を実施してきました。

本冊子は、5年目を迎えた2023年度の事業をまとめたものです。多くの皆さまからのご助力・ご関心を得て生まれたつながりや記録が、今後さらに「人と場所、地域と文化芸術」をつなぎ、京都府の地域文化振興の輪を拡げるきっかけとなる、未来のための「種」になることを願っています。

京都:Re-Search実行委員会
（事務局：京都府文化芸術課）



## ビジョン




## これまで

### 2019年度

京都府文化芸術課にプログラムオフィサーを1名、各広域振興局（丹後・中丹・南丹・山城）に地域アートマネージャーを1名ずつ配置し、文化芸術支援体制を強化。アーティスト・イン・レジデンス事業『京都:Re-Search』を主軸に、アートの視点から地域の魅力を再発見する取組を丹後・南丹・山城で展開。

### 2020年度

コロナ禍への対応として、専門人材を中心に、文化芸術関係者への相談支援を実施。また、アーティスト・イン・レジデンス事業『京都:Re-Search』を丹後・南丹・山城で実施するとともに、地域の実情を踏まえた人材育成事業を4地域で開催。

### 2021年度

前年度の取組の検証を踏まえ、地域における文化芸術活動支援を進めるとともに、次世代向けのアウトリーチ事業を展開。文化芸術課に新たにプログラムコーディネーターを1名配置し、府域の文化芸術情報の一体的な情報発信を促進するとともに、アーティスト・イン・レジデンス事業『京都:Re-Search』を丹後・南丹・山城で継続展開。

### 2022年度

前年度の取組の事業検証を踏まえた地域における文化芸術活動支援を進めるとともに、専門人材による調査・コーディネートの成果を可視化するウェブサイト「KYOTOHOOP（きょうとふーぷ）」を新たに開設。地域の魅力を再発見するアーティスト・イン・レジデンス事業『京都:Re-Search』を丹後・中丹、地域の文化芸術を促進させるモデル事業を4地域で開催。

## 2023年度について

過去4年間、府が主導して府内各地域でアートの視点による地域文化資源の掘り起こしと磨き上げを行う中で、地域の文化芸術団体等の自発的な取組が生まれてきました。2023年度は、こうした府民の意欲的な取組が地域に根づき、将来にわたって持続的に推進されるよう、「地域の能動性を引き出す」ことに留意しながら、地域における文化芸術の鑑賞・体験機会の創出を図るプログラムを企画、実施しました。京都府の専門人材が核となって企画・運営を進める体制により、市町村へ積極的な参加を促すとともに、事業企画にあたっては、住民自身が地域の魅力を自らの感性で切り取り自らの手で表現を行う要素を組み込む等、住民の能動性を引き出す工夫を行いました。また、地域外からアーティスト等を招聘するだけでなく、地域在住のクリエイターにも事業内で活躍する機会を提供することで、住民とクリエイターの日常的な交流が生まれる仕掛けづくりを行いました。

## 事業体制

文化力による京都府の活性化のため、京都府文化芸術課に、事業統括・企画立案や情報発信を行う2名の専門人材を配置するとともに、府内地域における文化芸術活動を牽引し、かつ地域住民の自主的な文化活動への指導・助言のできる専門性を備えた人材を地域アートマネージャーとして各広域振興局（丹後・中丹・南丹・山城）に1名ずつ配置。
専門人材が核となり、京都府と市町村等で構成された「京都:Re-Search実行委員会」等の団体や、地域発プロジェクトを通じて、文化芸術活動による個性豊かな地域づくりを推進しています。

### 京都府専門人材

文化芸術課 ｜ 2名（プログラムオフィサー／プログラムコーディネーター）
各広域振興局 企画・連携推進課 ｜ 各1名（地域アートマネージャー）



## 地域アートマネージャー

地域アートマネージャーとは、文化芸術活動に関する知見及び文化芸術活動のコーディネート、マネジメント等の実務経験を有する専門人材です。各広域振興局に常駐し、府民や市町村等の要望に応じた支援を行う中で、地域における文化芸術活動の実情を調査・把握しています。主な担当業務は以下の3つになります。

1. 地域における府民の文化芸術鑑賞・体験機会を創出するため、各広域振興局の事業と連動して地域の実情に応じたモデル事業を企画、運営する業務
2. 地域文化振興に関わる「人・場所・コト」の実態把握、情報発信
3. 地域における文化芸術振興に関する府民等に対する指導・助言

地域アートマネージャーの各担当区域




地域アートマネージャー
のプロフィール等はこちら

情報発信

# KYOTOHOOP

京都府域の人と場所、文化芸術と地域の輪を育む情報サイトです。府域で活動する人や施設などを地図上に記録していくことで、人と人、場所と人などがつながり新しいコトが起こる、文化芸術と地域が自発的に繋がる有機的な文化芸術のネットワークを【KYOTOHOOP（きょうとふーぷ）】と名付け、可視化し、育むことを目的に運営しています。人や場所の紹介以外にも、新しいコトを起こすきっかけとなるよう、各地域で展開されるプロジェクトの情報や、府内の文化芸術活動を深める記事なども更新中です。

ウェブサイト

WEB
https://kyotohoop.jp/

Instagram
@kyotohoop

Facebook ｜ @kyotohoop
YouTube ｜ @kyotohoop



KYOTO HOOP

① KYOTOHOOPに
**アクセスする。**

② 身近な地域の創造的な人・場所・コトを
**発見する。**

③ 人に会いに行ったり、場所を訪れてみたり、コトに参加したり、KYOTOHOOPに
**参加する。**

④ 参加した様子をSNS等でハッシュタグ#KYOTOHOOPをつけて
**発信する。**

⑤ KYOTOHOOPで出会った人や場所、コトをつなげて、
**新しいコトを起こす。**

KYOTOHOOPに**掲載される。**

## 情報共有のお願い SNS

KYOTOHOOPでは、府民の皆さまからの文化芸術の発見を募集しています。Instagram等のSNSで、ハッシュタグ「#kyotohoop」または「#きょうとふーぷ」をつけて、京都府域で見つけた文化芸術を感じる人や場所、体験などを共有してください。

Instagram
@kyotohoop

## 京都府文化芸術関係者支援相談窓口 SUPPORT

京都府域（京都市を除く）での活動に対するご相談をメールフォームまたは電話で受け付けています。お気軽にお問い合わせください。

▶ メールフォーム　https://kyotohoop.jp/support/

▶ 電話　075-414-5549　平日 9:00～11:30、13:30～17:00

▶ 対象　京都市を除く、京都府域で活動を行う、または活動を検討している文化芸術関係者の皆さま
（例：アーティスト、実演家、俳優、制作者、デザイナー、技術スタッフ、アートマネージャー、スペース運営者 等）

京都府からのお知らせ

support
メールフォーム

Pickup

## 4つのエリアとヒトと場所

FOUR AREAS

文化芸術に関わる人や場所を、地域との関わりを交えながら地図上にマッピングをして紹介しています。人と場所を俯瞰して地図上から探したり、各地域の一覧から地域の特色を感じつつ見つけたり、個別記事にある気になった単語（タグ）から辿ったり、それぞれの観察方法で各ページを巡り、京都府内に息づく文化芸術の「HOOP（輪・縁・円）」に参加してみてください。




各ページには、サイト内のページをつなげるタグがあります。クリックすると同じタグを持つ人、場所、イベントやレポートなどのコトにつながっていきます。

## KYOTOHOOPを深める

READING

「KYOTOHOOPを深める」では、サイト内で紹介をした人や場所をさらに深掘りした記事や、地域で起きている「コト」、次世代に向けた取組など、京都府の文化芸術の輪＝KYOTOHOOPが深まる情報を掲載しています。京都府域で開催されている文化芸術の取組を、京都府内の他の取組にもつながるように、記事執筆・編集を京都府の専門人材が行っています。




KYOTOHOOPを深める
READING
https://kyotohoop.jp/reading/



# 広がり、つながる、KYOTOHOOP

KYOTOHOOPで掲載している人・場の交流事例がどんどん増えてきています。

## 留学生地域交流事業
## 『キラッと輝く宇治っ子たちを訪ねる』

主催 ｜ 留学生スタディ京都ネットワーク
協力 ｜ 宇治市文化センター
KYOTOHOOP ｜ 宇治っ子朗読劇団☆Genji





12月16日（土）に宇治市文化センターを拠点に活動する「宇治っ子朗読劇団☆Genji」と留学生が『源氏物語』を通して国際交流を行いました。子どもたちは各国からの留学生へ宇治の魅力を紹介するとともに、朗読劇体験、平安装束の着付け等をレクチャーし、日ごろの練習や研究の成果を発揮。源氏物語や宇治への情熱があふれる子どもたちの様子に、留学生からは「日本の文化についてもより深く理解し、源氏物語の登場人物についても知ることができ、とてもうれしいです」との声がありました。

## 『生えてきた芸術祭 みかのはら〜と2023』

主催 ｜ みかのはら〜と実行委員会
KYOTOHOOP ｜ 寺子屋やぎや、いさざ会館

11月16日（木）〜19日（日）に木津川市で「アートってなんや？？」をコンセプトに開催された『生えてきた芸術祭 みかのはら〜と』。山城地域で面白くてかっこいい田舎を目指す場所「寺子屋やぎや」等が会場となり、2年目を迎えた今回は、中丹地域から文化交流施設「いさざ会館」が出展。2022年度の中丹地域研修プログラムに参加していた寺子屋やぎやの代表であり、みかのはら〜とのキュレーターである炭本氏から、同イベントの話を聞いた「いさざ会館」の用務員・浦岡氏が、そのコンセプトやそこに集まる人たちの熱気に感銘を受けたことにより、山城地域と中丹地域の文化芸術の交流が実現しました。




KYOTOHOOPを深める｜
READING［イベントレポート］
生えてきた芸術祭
みかのはら〜と2023

# 地域プログラム
# 地域展開プロジェクト

Program and Project

京都府と市町村等で協働する「京都:Re-Search実行委員会」や「福知山イル未来と実行委員会」を編成し、今年度は7つの事業を展開しました。

「地域プログラム」では、府域における文化活動の振興を図ることや、文化・芸術活動の担い手を育成するための取組として、各地域の実情を把握した上で企画された4つの事業を実施。
「地域展開プロジェクト」では、文化芸術の鑑賞機会が少ない京都府内の地域で、住民が文化芸術の鑑賞・体験する機会を創出することを目的とし、文化芸術の専門人材を中核に、府内自治体等が協働し、地域文化資源を活用した3つの事業を展開しました。



## 実施市町村




### 各ページのながれ

① 全体概要
② コトづくり図
③ 運営体制・アーティスト等のプロフィール
④ 事業詳細・解説等
⑤ 地域アートマネージャーからのレビュー
⑥ 参加者・来場者の声

# 丹後地域

京都府最北部に位置する丹後地域は、天橋立、伊根湾、経ヶ岬、夕日ヶ浦等、人々を魅了する自然景観に恵まれています。丹後の気候・風土が育む自然や食に関わる農林水産業や観光業に加え、織物・機械金属業等ものづくりの伝統・技術が息づいています。古代には「丹後王国」として独自の繁栄をしていたとも言われ、浦島太郎や徐福等、数多くの伝説や民話が存在するほか、重要伝統的建造物群保存地区の「伊根浦舟屋群」や日本遺産『丹後ちりめん回廊』があり、歴史・文化のロマンがあふれる地域です。






地域プログラム ｜ 丹後地域全域

## Kaico－参加型アートプロジェクト

約1300年前から織物の里であり、国内最大の絹織物産地である丹後地域。自然が育んできた景色とともに、江戸時代に発祥した絹織物「丹後ちりめん」など、伝統産業の営みが育んできた建物や職人文化は、『300年を紡ぐ絹が織り成す丹後ちりめん回廊』として、日本遺産※に認定されています。
2023年度の丹後地域プログラムでは、その『丹後ちりめん回廊』を背景とし、地域の文化資源である「テキスタイル（織物・布や糸）」と「アート」を結びつける取組から、町を見つめなおす住民参加型のアートプロジェクトを展開しました。

会期 ｜ 2023年8月18日（金）～11月4日（土）
参加 ｜ 無料
参加者・来場者数 ｜ 計1,584名

アーティスティック・ディレクター ｜ 西尾美也（美術家）
クリエイティブ・リーダー ｜ 谷口実里（アーティスト）／新井勝子（アーティスト）／武田美貴（デザイナー）

連動イベント ｜「あめつちの祭り」など、計11イベント
主催 ｜ 京都:Re-Search実行委員会
（京都府、宮津市、京丹後市教育委員会、伊根町、与謝野町、海の京都DMO ほか）

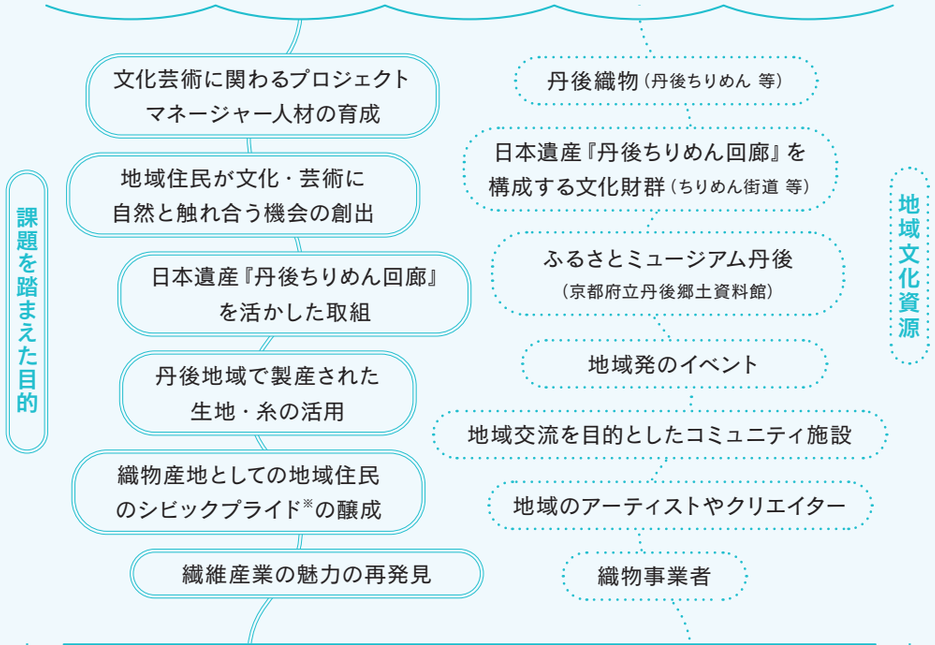
協力（50音順） ｜ 臼井織物株式会社／NPO法人加悦鐵道保存会／カトリック宮津教会／株式会社オクダ／株式会社二条丸八／株式会社吉村商店／旧三上家住宅／京都府織物・機械金属振興センター／クロスワークセンター MIYAZU／こまねこまつり実行委員会／清輝楼／田勇機業株式会社／丹後織物工業組合／丹後テクスタイル株式会社／ちりめん街道を守り育てる会／ 2rin（トゥリン）／ PARANOMAD／丸仙株式会社／安田織物株式会社／与謝野町織物技能訓練センター／吉村機業株式会社／ roots（京丹後市未来チャレンジ交流センター）

※日本遺産（Japan Heritage）とは
文化庁が認定する、地域の歴史的魅力や特色を通じて日本の文化・伝統を語るストーリーのこと。地域に点在する遺産（文化財等）をストーリーをもとにパッケージ化し、発信することで、地域のブランド化やアイデンティティの再確認を促進するなど、地域活性化を図ることを目的として認定されています。

コンセプト

## Kaico（蚕・懐古・回顧・邂逅）

丹後地域において、蚕から生成される資源を大切にしてきたことを、なつかしく思い（懐古）、振り返り見る（回顧）ことで、思いがけない出会い（邂逅）を創造する文化活動を【Kaico（カイコ）】と名付け、地域文化資源である「丹後織物」を用いた、地域の魅力と住民の出会い直しを行うテキスタイルアートプロジェクト。




実施場所①　**丹後地域4市町**（宮津市、京丹後市、伊根町、与謝野町）

日本遺産『丹後ちりめん回廊』を構成する文化財を有するほか、近年、アーティストやクリエイターが移住し、イベント等が多数実施され、地域内外での交流が促進されています。

実施場所②　**ふるさとミュージアム丹後**（京都府立丹後郷土資料館）

丹後国分寺跡、旧永島家住宅を有する、天橋立を一望できる高台にある郷土資料館。丹後地域の考古・歴史・民俗に関する資料についての調査・研究を行い、その成果を展示や講座等で発信しています。2026年度中にリニューアルオープン予定。

会場・環境

**※シビックプライドとは**

19世紀イギリスで発展した考え方。暮らすまちや好きなまち（地域）に感じる、当事者意識にもとづく誇り、愛着、共感、自負心など、気持ちのこと。



**運営体制**

主催・企画・広報
- 京都:Re-Search実行委員会（丹後部会）
- 京都府（文化芸術課／丹後広域振興局 企画・連携推進課／京都府立丹後郷土資料館）
- 宮津市（企画課）
- 京丹後市教育委員会（生涯学習課）
- 与謝野町（産業観光課）
- 伊根町（企画観光課）
- 海の京都DMO

### アーティスティック・ディレクター



**西尾美也**

にしお・よしなり

美術家。1982年奈良県生まれ。文化庁新進芸術家海外研修員（ケニア共和国ナイロビ）、奈良県立大学地域創造学部准教授などを経て、現在、東京藝術大学美術学部先端芸術表現科准教授。装いの行為とコミュニケーションの関係性に着目したプロジェクトを国内外で展開。ファッションブランド「NISHINARI YOSHIO」を手がける。

### クリエイティブ・リーダー



**谷口実里**　たにぐち・みさと

アーティスト。1996年宮津市生まれ在住。現在絵画表現を中心に文章執筆やパフォーマンス、作詞作曲など多岐にわたって表現活動を行う。



**新井勝子**　あらい・たえこ

アーティスト。与謝野町生まれ在住。絵画、イラスト、チラシ、ラベルデザイン等制作。民族楽器バンドGing Nang、福知山沖縄三線ゆんたく会、阿蘇陶友会、藤織保存会所属。



**武田美貴**　たけだ・みき

デザイナー。1980年岡山県岡山市生まれ。京丹後市在住。2003年にデザインユニット、COCHAE結成。「折紙をもっとポップに！」をキーワードにグラフィック折紙を制作。

## プログラム　1

# 学ぶ編「アートプロジェクトって何だろう?」

日時 ｜ 2023年8月18日（金）14:00〜16:00
会場 ｜ クロスワークセンター MIYAZU
定員 ｜ 20名程度（会場参加）＋オンライン
参加者数 ｜ 計50名（会場29名、オンライン21名）

### パート1　レクチャー

**「アートプロジェクトって何だろう?」**

講師 ｜ 西尾美也（美術家）

講師の西尾美也氏より、これから行っていく「アートプロジェクト」とはそもそもどういう「コト」なのか、事例を交えたレクチャーを実施。アートプロジェクトの特徴・考え方・発生の要因・成果の位置付け等を国内外の事例を通じて説明。近年は、時間をかけて住民と共に学び合いながら継続的なプロジェクトに取り組んでいる西尾氏の「状況を変換する技術」の視点についても語られ 、これから起こす「コト」への可能性が明示されました。





**西尾美也氏の実践事例**

Self Select（ベナン共和国・ニュージーランド）／ NISHINARI YOSHIO(大阪市西成区）／ Kangaeru（ケニア共和国）／ Gyo-Show（ケニア共和国）／町を縫う（岡山）

### パート2　クロストーク

**「アートプロジェクトとまちづくりの関係性」**

登壇者 ｜ 西尾美也（美術家）× 筒井章太（クロスワークセンター MIYAZU ／ Contents Director）

パート1の西尾氏の話を受け、筒井氏からは現在行っている関係人口創出を目的としたツアー事業が、アートプロジェクトに近似していることから話が展開。まちづくりとして「コト」が求められている地域住民の視点から、ファッションを「コト」として捉える西尾氏の感覚に共鳴をしながら、西尾氏のアートの原点や、アートプロジェクトで起こる意図していない参加者の行動の新鮮さ、アートの醍醐味でもある「言語化できない対話」について、Kaicoで起こるであろう交流が示唆されました。また、Kaicoでは行政と地域住民をつなぐ、コーディネーターとしての地域アートマネージャーの存在が重要な役割となることも語られました。

**キーワード**　異質なものをつなげる／学びの共有空間としてのアート／プロセス自体が作品／言語化できないものに面白さが詰まっている／作り手と受け手の関係性の捉え直し





**筒井章太**　つつい・しょうた

1995年生まれ。北海道滝川市出身。立命館大学文学部を卒業後、広告代理店に入社。中国支社を立ち上げ20社以上の日本企業の中国進出を支援する。2022年3月FoundingBaseへ入社し、現在は京都府宮津市の「クロスワークセンター MIYAZU」を中心とした関係人口創出事業に従事。



## プログラム　2

# 実践編ワークショップ「町を縫う」

対象 ｜ 高校生以上
持参物 ｜ スマートフォンまたはデジタルカメラ、飲み物、昼食、工作用ハサミ、布用ハサミ

西尾美也氏監修のもと、テキスタイルワークショップを実施。宮津市・京丹後市・与謝野町にある日本遺産『丹後ちりめん回廊』とその周辺を散策し、丹後地域の織物事業者から協力を経て提供された生地や糸を使用し、参加者が発見した「町の形」を型取り、丹後ちりめんの生地に縫い付ける作品を制作。参加者の創造性を刺激するクリエイティブ・リーダーには、各市町で活動するクリエイターが参加しました。

**「町を縫う」とは？**

美術家の西尾氏が2014年に考案した、地域のまち歩きと布端材を活用したテキスタイルワークショップ。今回は丹後地域の特性を活かして、織物工場で眠っている「布」と「糸」を使用し、ワークショップを実施しました。

### ワークショップ　「町を縫う」工程

**1**　「町を撮る」
まち歩きをしながら写真を撮る



**2**　「町を振り返る」
撮影した写真を共有



**3**　「町を切り取る」
形・模様の切り出し・型紙作り



**4**　「町を縫う」
町の形・模様を縫う



## Kaico「町を縫う」 in 宮津

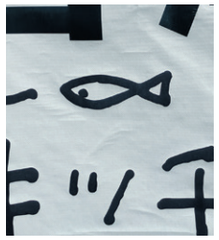
開催日 ｜ 2023年8月19日（土）
時間 ｜ 9:30〜17:00
参加者数 ｜ 19名（定員15名程度）

講師 ｜ 西尾美也（美術家）
ガイド ｜ 稲穂将士（丹後郷土資料館）

クリエイティブ・リーダー ｜
谷口実里（アーティスト）

制作会場 ｜ 島崎ちしや





## Kaico「町を縫う」 in 与謝野

開催日 ｜ 2023年9月2日（土）
時間 ｜ 9:30〜17:00
参加者数 ｜ 19名（定員15名程度）

講師 ｜ 西尾美也（美術家）※オンライン参加
ガイド ｜ 青木順一

クリエイティブ・リーダー ｜
新井勝子（アーティスト）

制作会場 ｜
旧加悦町役場庁舎2階







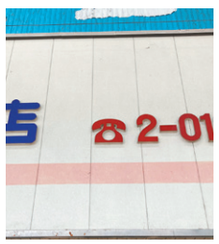

## Kaico「町を縫う」 in 京丹後

開催日 ｜ 2023年9月9日（土）
時間 ｜ 9:30〜17:00
参加者数 ｜ 18名（定員15名程度）

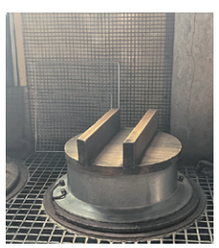
講師 ｜ 西尾美也（美術家）※オンライン参加
ガイド ｜ 田中智子

クリエイティブ・リーダー ｜
武田美貴（デザイナー）

制作会場 ｜
金刀比羅神社斎館和室（社務所）








3市町の「町を撮る」
まち歩きルートはこちら▶
リンク先の＊印は日本遺産『丹後ちりめん回廊』構成文化財
GoogleMAP

学ぶ編・実践編の動画
（展示用）はこちら▶
KYOTOHOOP公式
YouTube

## Kaico「町を縫う」 出張ワークショップ

丹後地域内で実施されている地域発のイベントや地域交流拠点で、「町を縫う」制作工程のうち、「町の形・模様を縫う」を出展・出張形式で実施しました。

対象 ｜ 小学生以上
参加者数 ｜ 計352名
実施数 ｜ 35回
実施会場 ｜ 25箇所

9月

| | | |
|---|---|---|
| 3日（日） | 10:00-15:00 | 与謝野町 ｜ ちりめん街道マルシェ |
| 7日（木） | 16:00-19:00 | 京丹後市 ｜ roots |
| 17日（日） | 10:00-16:00 | 京丹後市 ｜ こまねこまつり |
| 20日（水） | 16:00-19:00 | 宮津市 ｜ クロスワークセンター MIYAZU |
| 21日（木） | 16:00-19:00 | 京丹後市 ｜ roots |
| 23日（土） | 11:00-16:30 | 伊根町 ｜ ぐりマルシェ |
| | 11:00-16:00 | 京丹後市 ｜ 三津のちいさな芸術祭 |
| 24日（日） | 10:00-16:00 | 宮津市 ｜ 宮津BANPAKU |
| 27日（水） | 16:00-19:00 | 宮津市 ｜ クロスワークセンター MIYAZU |
| 28日（木） | 16:00-19:00 | 京丹後市 ｜ roots |
| 30日（土） | 10:00-17:00 | 京丹後市 ｜ タンゴサウナ祭 |

10月

| | | |
|---|---|---|
| 1日（日） | 10:00-15:00 | 宮津市 ｜ Tango Lohas |
| 5日（木） | 16:00-19:00 | 京丹後市 ｜ roots |
| 7日（土） | 10:00-16:00 | 宮津市 ｜ ふるさとミュージアム丹後（旧永島家住宅） |
| 11日（水） | 13:30-15:30 | 宮津市 ｜ Ma・RooTs（みねやま福祉会） |
| | 16:00-19:00 | 宮津市 ｜ クロスワークセンター MIYAZU |
| 12日（木） | 16:00-19:00 | 京丹後市 ｜ roots |
| 15日（日） | 10:00-15:00 | 与謝野町 ｜ きものでぶらり♪ちりめん街道 |
| | 17:00-20:00 | 京丹後市 ｜ 15 会（丹後暮らし探求舎） |
| 18日（水） | 10:00-17:00 | 京丹後市 ｜ TANGO TEXTILE EXHIBITION 第74回丹後織物求評会 |
| 19日（木） | 10:00-17:00 | 京丹後市 ｜ TANGO TEXTILE EXHIBITION 第74回丹後織物求評会 |
| | 16:00-19:00 | 京丹後市 ｜ roots |
| 20日（金） | 10:00-13:00 | 京丹後市 ｜ TANGO TEXTILE EXHIBITION 第74回丹後織物求評会 |

各参加日 ｜ 西尾美也　9月17日（日）　谷口実里　9月24日（日）、9月27日（水）、10月11日（水）
新井勝子　9月3日（日）、9月23日（土）、10月15日（日）、10月19日（木）、10月20日（金）
武田美貴　9月7日（木）、10月19日（木）













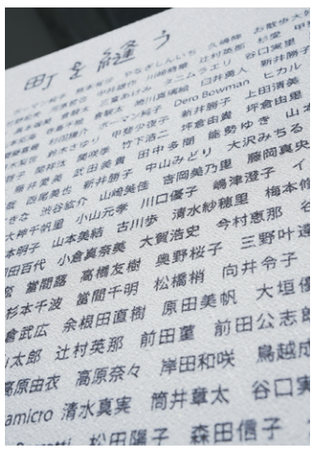












凹凸のある丹後ちりめん生地にインクジェットプリントで印刷されたキャプションの一部。
制作 ｜ たてつなぎ

## プログラム 3

# 共有編（展示）「町を縫う」

会期 ｜ 2023年10月21日（土）～11月4日（土）
※10月23日（月）、30日（月）は休館
※10月21日（土）、27日（金）午後は荒天のため中止
※11月3日（金・祝）、4日（土）は『あめつちの祭り』同時開催
時間 ｜ 9:00～16:30
会場 ｜ ふるさとミュージアム丹後（京都府立丹後郷土資料館）屋外
来場者数 ｜ 計979名

協力 ｜ 小嶋庵／小西俊明／豊島美喜也
仕上げ縫製 ｜ 関祥太
インストール ｜ 株式会社タック谷津
写真撮影・展示動画制作 ｜ 今村実来

**鑑賞ツアー**
所要時間 ｜ 15分程度
開催日 ｜ 10月22日（日）10:00～
11月3日（金・祝）10:00～／13:00～／15:00～
11月4日（土）10:00～
ガイド ｜ 甲斐少夜子（地域アートマネージャー・丹後地域担当）

# クロージングイベント

開催日 ｜ 2023年11月4日（土）
会場 ｜ ふるさとミュージアム丹後（京都府立丹後郷土資料館）

## 内容①

### ワークショップ「町を縫うmix」

時間 ｜ 14:00〜15:00
対象 ｜ 小学生以上
参加者数 ｜ 25名（定員20名程度）
シルクスクリーンサポート ｜ 田中栄輝（大善株式会社）





50センチメートル角の丹後ちりめん生地の風呂敷に「Kaico」のロゴをプリント（シルクスクリーン技法）し、「町の形」を縫いつけるワークショップを実施。参加者の好みの色のロゴに、「町の形」「布」「糸」も、それぞれに好きなものを組み合わせたオリジナル風呂敷が出来上がりました。

## 内容②

### ラウンドトーク「“アートプロジェクトって何だろう?”はどうだった?」

時間 ｜ 15:00〜16:00
参加者 ｜ 100名

登壇者 ｜ 西尾美也／臼井勇人※／谷口実里／新井勝子／武田美貴／甲斐少夜子（地域アートマネージャー・丹後地域担当）
ファシリテーター ｜ 筒井章太



8月から始まったアートプロジェクトを振り返るラウンドトーク。素材提供者の臼井氏は、織物業と地域の人の関わりがほぼないという現況を示した上で、「“手芸という行為”で緩やかにつながっていったこのプロジェクトは、丹後の織物を“丹後の人”に触ってもらうきっかけになった」と事業者として意義深いものであったと振り返りました。地元アーティストの新井氏・谷口氏にとっては、本プロジェクトの成果は様々な「出会い」であり、人だけでなく、思いもよらない作品に出会え、その過程がプロジェクトであったとの意見が。また、アーティスティック・ディレクターを務めた西尾氏からは、“手芸”という“家庭の中で女性がするもの”として、美術から遠ざけられていた技法が、誰もが参加しやすく、柔らかく心地のいい共創空間をつくりだしたのがKaicoであり、そういった社会から排除されてきた手法や考え方が、今後、色んなことを考えていくときに、ヒントになるということを体現できたと語り、デザイナーの武田氏も手芸や民芸がアートの領域まで入ってきたことを実感した、などKaicoがもたらした成果を共有する場となりました。

**臼井勇人** うすい・はやと
臼井織物株式会社。与謝野町生まれ在住。海外メーカーの営業企画職を経て、2019年から実家の丹後ちりめん織元・臼井織物にて織り手として働く傍ら、織物職人グループ「たてつなぎ」としても活動。





## 地域アートマネージャーからのレビュー

「Kaico」は、誰もがアートプロジェクトについて考え、体験できるプロジェクトでした。
実践編「町を縫う」では、参加者各々の視点で見つけた形を丹後地域の布と糸で“再現”し、多種多様な形が集まり1つの作品に創り上げられていきました。その過程はまさに、アートを介した人と人、人と地域のコミュニケーション。途中、西尾さんの「個々で縫った布が離れていたら関係性が生まれない。誰かが縫った形にリアクションするように」という声かけで、布上でさらに“交流”が深まっていきました。
参加者の方々は、新たな視点や出会いを得て、地域を想う（回顧する）時間になったようです。「Kaico」で生まれた関係性・交流の今後のひろがりが楽しみです。

**杉 愛** ［南丹地域担当］

## 参加者・来場者の声

### 感想

**実践編「町を縫う」**

▶ ワークショップだけでなく、コミュニケーションを深めることができた。作品になるのが楽しみです。（京丹後市・40代）

▶ 丹後ちりめんに触れるいい機会でした。眠った資源がまち歩きと一緒にこうやって活用されることが続いてほしい。（京丹後市・20代）

▶ こんなにいいものを使ってしかも楽しくアートをつくる内容を考えられたことがすごいなと思いました。（他都道府県・40代）

▶ みんな同じものを見ているけど、切り取り方がみんなちがって、それがひとつの作品になっていくのが面白い過程。最後まで見届けたいです。（京丹後市・40代）

▶ まち歩きでは知らないことをガイドさんのおかげで詳しくたくさん知れた。多様な柄、質感の生地に出会って、丹後の生地スゴイと思いました。糸も多種多様にあってよかった。みんなでわいわいできたのも楽しかった。最後の作品がどうなるかも楽しみです。（京丹後市・30代）

▶ 回を重ねるごとに楽しさがます、アートプロジェクトってすごいな！って思いました。（宮津市・20代）

**出張ワークショップ**

▶ 祭りなどを協力的にしている地域だからこそ、守っていくべきだと感じた。久しぶりにさいほうをして楽しかったです。（開催地域の市町村内・20代）

▶ 色々な色に変わる糸が本当にすてきでした。またやりたいです！（開催地域の市町村内・10代）

▶ とても楽しかったです！たまには何も考えずもくもく手を動かすのは気分転換にもなってイイですね♡　高校生もお世話になってありがとうございました。（開催地域の市町村内・30代）

▶ 「会話がうまれる！」と思って、うきうきしてたんですが、集中しすぎてそれどころじゃない！高校生の○○くんと友達になって、一緒にいられたのも、いい思い出です！（開催地域の市町村内・20代）

▶ 始めた時、慣れないこともあり、苦戦しましたが、慣れてくると、だんだん楽しくなってきました！！また縫いたい！！（開催地域の市町村内・20代）

**展示**

▶ 自分が参加したものがすごく大きい作品になっていて驚きました！（京丹後市・20代）

▶ 軽い気持ちでワークショップに参加しましたが、こんな素敵なアート作品に関わることが出来て良かったです。ありがとうございました！（与謝野町・30代）

▶ たくさんの人が気軽に参加できて、地域やアートに興味を持つきっかけになるイベントで楽しかったです。（京丹後市・40代）

▶ 地域と連携したイベントでとてもありがたいです。又、何か協力できることがあれば参加したいです。（京丹後市・40代）

▶ 地域の良さやアートの良さを改めて知る機会になった。（京丹後市・20代）

▶ たのしかったです。ツアーでよく分かりました模様等！（京丹後市・30代）

**「町を縫うmix」ワークショップ**

▶ ワークショップ、親切に教えていただきありがとうございました。（宮津市・50代）

▶ とても楽しくちくちくさせていただきました！ありがとうございました！（京丹後市・20代）

▶ たのしかったです！外でするのも開放感があってよかったです！（京丹後市・20代）

▶ たのしかった。ぬったりするのが楽しかったです。（宮津市・〜10代）

▶ とても楽しく、人との出会いやつながりが増えたイベントでした。ありがとうございました！（京丹後市・30代）



地域展開プロジェクト ｜ 宮津市

# キッズワークショップ『鳥笛で探す“音のなる不思議”』

古くから日本を代表する景勝地として知られる天橋立を有する宮津市では、ボーダレス・ミュージックフェスティバル『KYOTOPHONIE 2023』の開催を契機とした、大人から子どもまで親しめる音楽ワークショップを行いました。

講師には、『KYOTOPHONIE2023』出演アーティストbaobabを迎え、現代音楽家との交流機会を創出するとともに、音楽を生む“音”が、そもそもどのように「なる（鳴る・成る）」のか、音の不思議に触れる体験を提供しました。

開催日 ｜ 2023年10月8日（日）
会場 ｜ 天橋立海水浴場付近
時間 ｜ 1回目13:00〜 ／ 2回目15:00〜（各回1時間程度）
対象 ｜ 5才以上
参加費 ｜ 無料
参加者数 ｜ 計45名（各回定員25名）

講師 ｜ baobab

主催 ｜ 京都:Re-Search 実行委員会（京都府、宮津市 ほか）／
一般社団法人KYOTOPHONIE

連動イベント｜ KYOTOPHONIE2023 天橋立

コンセプト

# 音のなる不思議

音楽を生む“音”が、そもそもどのように“なる（鳴る・成る）”のか。
音の不思議に迫る体験をするワークショップ。

**課題を踏まえた目的**

- 国際的に活躍するアーティストとの交流
- 地域文化資源の新たな魅力を知る機会の創出
- 地域住民が文化芸術に触れる機会の創出

**地域文化資源**

- 景観（日本三景である天橋立）
- 自然（海、森、鳥の声、風の音、波の音）

### 丹後天橋立大江山国定公園（宮津市）

天橋立は古くから日本を代表する景勝地として知られ、白砂青松の地として日本三景の1つに数えられています。天橋立に二分された阿蘇海と宮津湾、その周辺の山並みが織りなす自然美は、その地形の特異性から人々の共感を得て愛され続けてきました。文人墨客により和歌や絵画に表現された情景は、地域を代表する文化や景観として育てられ、現在では、全国各地はもとより世界各地から、四季を通じて多くの観光客が訪れる場所となっています。

### KYOTOPHONIE2023 天橋立

10月7日（土）、8日（日）の2日間、天橋立で開催されたボーダレス・ミュージックフェスティバル。「調和」「多様性」「交流」「探求」これらのキーワードを核とし、深いエネルギーに満ちた催しを通じて「繋がり」「対話」「体験」を提供。会場内3カ所にステージが設けられ、日本を含め世界4カ国から生音で“今”聴きたい先鋭的なミュージシャン14組の公演が行われました。

会場・環境

**運営体制**

主催・企画・広報
- 京都:Re-Search実行委員会（宮津部会）
- 京都府（文化芸術課／丹後広域振興局 企画・連携推進課）
- 宮津市（企画課）
- 海の京都DMO
- 一般社団法人KYOTOPHONIE



## 講師（アーティスト）



### baobab

バオバブ

拠点である「カテリーナの森」で木を植え、山に入りつつ、管・弦・打楽器の多様な古楽器を製作する松本未來とMaika（歌／fiddle）を中心とする兄妹ユニット。自然、人、暮らし、音楽やアートに真摯に向き合う2人から出る、トラッド、古楽、フォークをベースにした自由な音と声は、思わず涙が出るほどのピュアさを備えている。

## キッズワークショップ

ワークショップは、baobabの松本未來氏による鳥笛の実演から始まりました。鳥の鳴き声と見紛う音色は参加者を夢中にさせてくれました。
目標となる音色を確かめたら、いよいよ鳥笛制作です。今回つくる鳥笛は、吹き口と笛の本体が離れた構造で、吹き口から息がスムーズに笛本体の中に入り、音の共鳴を起こすことが良い音をならすポイントなのだそう。単純な構造だからこそ、微細な調整が「音のなり」に関わるため、2つの竹のパーツを接合するだけでなく、吹き口の接合面の調整など、きれいな音をならすための「調整」が多くあり、baobabの2人とともに参加者は試行錯誤。子どもたちにとっては、なかなか難しい作業のようでしたが、1つの音孔と呼気量の調整により、参加者ごとに音や音階が異なるオリジナル鳥笛が完成しました。
最後には、KYOTOPHONIEの会場の1つである「海ピアノ（砂浜に設置された誰でも自由に弾けるグランドピアノ）」で、未來氏と一緒にMaika氏の伴奏で鳥笛の合奏を行いました。baobabの演奏の魅力に直接触れることで、現代音楽や音楽家の方々に親しむ機会となりました。









あらかじめ用意されたキットを接合するだけかと思いきや、音そのものを出すためにはいくつもの細かな調整が。きれいな音が鳴ったときの達成感はひとしおの様子でした。



## 参加者の声

### ✎感想

▶ 森の中で波音をききながらのワークショップ。とても五感を刺激されました。ありがとうございました。（丹後地域・50代）

▶ すごく楽しかった。竹のパーツ2つでキレイな音が出て感動した。（丹後地域・～10代）

▶ もっといろんな音の出し方を教えてくれたらうれしいです。みんなでえんそうしてみたり、作ったり、先生も優しかったので満足です。もっといい音の出る鳥笛を作りたいです。（丹後地域・～10代）

▶ 娘が初めて1人で作って、美しい音が鳴る笛を嬉しそうにふいてる姿がとても愛おしく感じ、幸せ。（丹後地域・不明）

▶ とてもキレイな音でビックリしました。ありがとうございました。たのしかった。（府内の市町村・30代）

**その魅力を広く知ってほしい、守っていきたい、地域づくりに活用したいと思う地域の文化資源（歴史、風土、景観、祭り、芸能、工芸等）**

★ 文化、景観（丹後地域・～10代）

★ 古墳など。都市伝説がたくさんたのしいです（丹後地域・40代）

★ 歴史や祭り、景観（丹後地域・30代）

★ 丹後ちりめん（丹後地域・40代）

★ 天橋立（丹後地域・～10代）

★ 宮津祭り（丹後地域・～10代）

★ 熱気球とべんがら染め（丹後地域・～10代）



# 中丹地域

京都府北部、丹波山地の山々と日本海に囲まれた中丹地域では、豊かな自然を背景とした歴史と文化が育まれてきました。古墳時代には由良川流域を中心に数千基の古墳が築かれ、平安時代には山岳寺院、鎌倉時代には府北部唯一の国宝として知られる光明寺二王門が建立されました。戦国時代には、福知山では明智光秀が福知山城を、舞鶴では和歌等にも通じた文化人・細川幽斎が田辺城を築き、城下町が栄えました。明治時代には、旧海軍の舞鶴鎮守府が舞鶴市に置かれ、赤れんが倉庫群は日本遺産として日本近代化の歩みを今に伝えています。



地域プログラム ｜ 舞鶴市

# 遠回りの仕方ー準備編

北は日本海、南は丹波山地に育まれた歴史や風土と、赤れんが倉庫群など日本近代化の歩みが残る舞鶴市では、アートプロジェクトを担う〈人材育成プログラム〉、〈レクチャー〉を開催。舞鶴湾に浮かぶ島々は、舞鶴の自然や、歴史などを数多く内包する特有の場所であり、そんな場所でアートプロジェクトを開催するとしたら、どんなことができるのか。中丹地域で活動するアーティストやアートマネージャーなど、「新しいコト・価値」を起こす様々な地域のプレイヤーとともに、舞鶴市の地域資源についてリサーチ（再調査）を繰り返しながら、そもそも「なぜ」アートプロジェクトを行うのか等、企画立案を丁寧な歩みで学ぶ場を創出しました。

連続プログラム
開催日 ｜ 2024年1月13日（土）、1月21日（日）、
1月27日（土）、2月3日（土）
時間 ｜ 各日10:00〜16:00
会場 ｜ 舞鶴市中公民館（中総合会館内）
定員 ｜ 15名

レクチャー「アートプロジェクトの実践方法」
日時 ｜ 1月21日（日）14:00〜17:00
会場 ｜ 舞鶴赤れんがパーク2号棟舞鶴市政記念館
定員 ｜ 50名

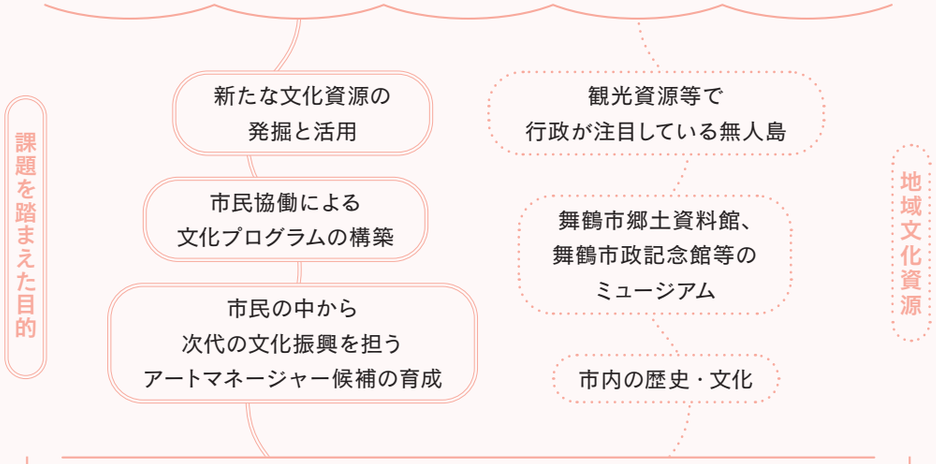
共通
参加 ｜ 無料
参加者数 ｜ 計48名
講師 ｜ 寺島千絵（フリーランスアートマネージャー／コーディネーター）
浦岡雄介（アートマネージャー／いさざ会館用務員）
新井厚子（アーティスト）
重本晋平（アーティスト）

主催 ｜ 京都:Re-Search 実行委員会（京都府、舞鶴市 ほか）

コンセプト

## 遠回りの仕方

「新しいコト」が起きるプロセスにおいて、企画をつくること、リサーチ、アーティストや地域との調整、展覧会準備、広報など様々な工程があります。それらの方向性を示す「コンパス」となるコンセプトや目的等を、リサーチやまち歩きなどの実体験や、対話を通じて参加者とともに見つけ、構築していく〈ワークショップ〉と、事例を学ぶ〈レクチャー〉を数回にわけて実施。




### 舞鶴市

赤れんが倉庫群を始めとする近代化遺産や軍事遺産など、様々な歴史・文化資源を有し、2016〜2017年度には、アートの視点から地域の魅力を再発見するアーティスト・イン・レジデンス事業『京都:Re-Search in 舞鶴』を開催。2023年3月に「第2次舞鶴市文化振興基本計画」が策定されており、その中では、文化振興における市民参加の重要性や、市民の中からアートマネージャーを育成することが重要な目的の1つとして掲げられています。

会場・環境

## 運営体制

主催・企画・広報
- 京都:Re-Search実行委員会（中丹部会）
- 京都府（文化芸術課／中丹広域振興局企画・連携推進課）
- 舞鶴市（文化振興課）

## 講師／アーティスト



### 寺島千絵　てらしま・ちえ

フリーランスアートマネージャー／アートコーディネーター。愛知県生まれ。東京都内の美術館、コマーシャルギャラリー、レジデンス施設を経て、2012年よりフリーランス。主な経歴に『あいちトリエンナーレ』（2013、2016）、『京都:Re-Search 2017 in 福知山』、『大京都 2017 in 舞鶴』、『東京ビエンナーレ2020/2021』等の芸術祭で、教育普及の観点から市民参加型プログラムや人材育成プログラムの企画のほか、まちに関わり制作するアーティストのコーディネートを行ってきた。2023年2月に京丹後市へ移住。現在、兼業可能なふるさと創生職員として京丹後市教育委員会事務局 生涯学習課で文化振興を担当。



### 浦岡雄介　うらおか・ゆうすけ

いさざ会館用務員／アートマネージャー。2015年文化交流施設「いさざ会館」を開設。同館を用務員として住み込みで運営。造形教室やアート・福祉に関わるワークショップ、またライブ、お祭り、中高年向けサロンの企画・運営、レンタルスペースを行い地域に関わる活動を行っている。



### 新井厚子　あらい・あつこ

アーティスト。バルセロナのマッサナ美術学校で立体、空間芸術を学ぶ。欧米、日本各地を移動しながら制作活動を続け、地域の特性や文化、習慣、場所の持つ意味や移動から発想を得た作品を多く制作。参加型アートプロジェクトや、コミュニケーションを道具として捉えた制作・発表をおこなっている。



### 重本晋平　しげもと・しんぺい

アーティスト。京都精華大学デザイン学科プロダクトコミュニケーションデザイン専攻卒業。まち歩きのなかでみつけた草などに名前をつける、分類するなどし、図鑑や絵本などを制作する「まちくさ」プロジェクトや、参加型路上探検プログラム「まちくさワークショップ」のプロジェクトを数多く実施している。



## 連続プログラム ①

# ルートを探す｜イントロダクションと島リサーチとミーティング

日時 ｜ 1月13日（土）10:00〜16:00
会場 ｜ 舞鶴市中公民館（中総合会館内）












連続プログラムの第1回目「ルートを探す」では、アートプロジェクトの企画案を考えていくにあたり、舞鶴は海や島と生活が密着していて、面白い題材になるのではないか、と目星をつけてリサーチに出かけました。
最初は舞鶴市郷土資料館。「海とともに生きる」をテーマにした製塩や交易に関する考古資料や、「舞鶴のまつりと祈りのこころ」として四季折々の祭りや多彩な民俗芸能、鎮守府が設置された軍港都市としての近代化遺産など、海とつながる舞鶴の歴史と文化を感じました。
五老スカイタワーは、生憎の猛吹雪で視界不良。島々が浮かぶ舞鶴湾の景色が見られる予定でしたが、写真パネルと見比べながら、吹雪の間に見える雪景色に、海の向こうを参加者で想像しました。
最後には、赤れんがパーク内にある舞鶴市政記念館へ。舞鶴市の歩みが紹介されていました。その中でも、参加者の興味を引いたのは、縄文丸木舟でした。浦入遺跡から出土した国内最古・最大級の外洋航海用丸木舟であり、リサーチ後の振り返りミーティングでは、縄文時代に海からやってきた人の視点など、地形から鑑みた舞鶴湾を想像し、話題が弾みました。

**リサーチ場所**
- 舞鶴市郷土資料館
- マナイ商店街
- 五老スカイタワー
- 舞鶴市政記念館

等



話し合ったことは、舞鶴市の地図に書き込んでいきました。

連続プログラム ②

## 回り方を学ぶ ｜ レクチャー
## 「アートプロジェクトの実践方法」

日時 ｜ 1月21日（日）14:00〜17:00
会場 ｜ 舞鶴赤れんがパーク2号棟
舞鶴市政記念館
写真撮影 ｜ 大西紗生（HOSHITSU PHOTO）

パート1

**「アートプロジェクト実施の準備」**

講師 ｜ 寺島千絵

フリーランスアートマネージャー／アートコーディネーターの寺島氏からは、プロジェクトを進めていく工程の大きな枠組みとして、「たちあげる」→「うごかす」→「のこす」という大きな3つのステップがあり、事前に準備することやそれぞれの工程で大切にしている心構えについて、ご自身が関わられた事例を踏まえた紹介がありました。その中で、本プログラム『遠回りの仕方ー準備編』で行っている「たちあげる」工程とはプロジェクトの要であるという話がありました。「たちあげる」の要素には「想い（なぜそれをやるのか?）／座組（誰とそれをやるのか?）／タイミング（いつそれをやるのか?）」があるとのこと。そして、プロジェクト実施の経験値が浅くても、お金や場所がなくても、この3つがしっかりしていればカバーできることがたくさんある、と地域で行う活動への学びにつながりました。特に「想い」は、コンセプトづくり、資金調達、プロジェクトチームとの情報共有、プロジェクトが何だったのかという振り返りまで続く行為となり、想いを共有するための「対話」は、プロジェクトを「うごかす」→「のこす」までの動力になるとも語られました。





パート2

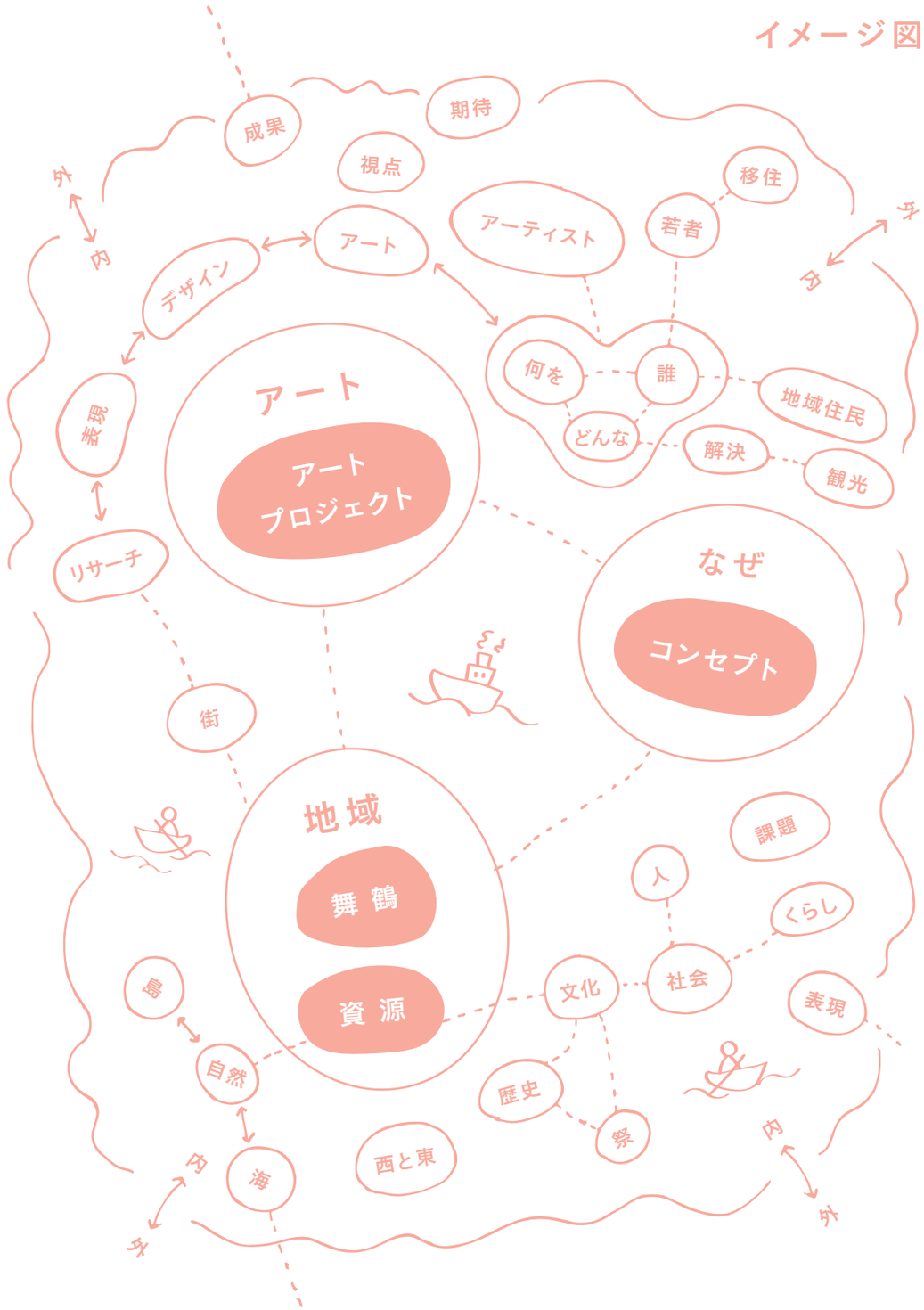
**「地域アート活動をすることとは**
**ーいさざ会館の取り組みー」**

登壇者 ｜ 浦岡雄介

舞鶴市の私設文化交流会館「いさざ会館」の用務員である浦岡氏からは、いさざ会館の成り立ち、活動事例、活動をする理由や役割、活動する上で大事にしていることが紹介されました。地域のアーティストと行ったプロジェクト事例では、町に新しいものの見方を提案したり、もともとあったものが面白くなる瞬間があるのがアートプロジェクトを行う1つの意味であるとの話が。また、いさざ会館では、特別なものに感じる「アート」という言葉を使わずに、「表現活動」という言葉を用いてアーティストを発掘し、発信しているという言語化の話も。そして、プロジェクトの動力となるコンセプトや目的は、地域にあるものを活かして紹介することであり、浦岡氏が率先して、舞鶴を面白がることで、違う見え方が地域の人にもだんだん伝わり、面白がってくれ、そういう人が増えてくると、町の見方が変わり、日常が面白いものになるのではないかというアートプロジェクトが「起こす」景色が共有されました。



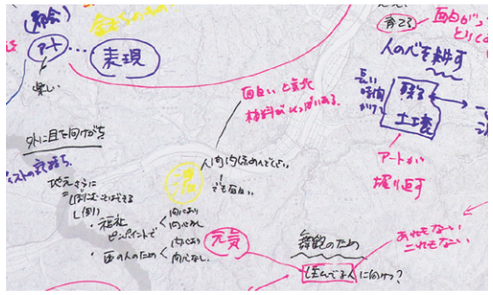
遠回りの仕方
イメージ図



連続プログラム ③

## 聞いたり探したりする ｜ セルフ・グループリサーチ

日時 ｜ 1月27日（土）10:00〜16:00
会場 ｜ 舞鶴市中公民館（中総合会館内）



2回目のレクチャーで、「想い」の部分、コンセプトが重要であるということを受け、まずは、「なぜするのか」「誰のためにするのか」「必要なのか」というコンセプトの“根っこ”について話し合い、地図に追記していきました。「都市部に比べて文化芸術に関心のある人口が少ない」と感じることから、「そもそも関心をもたないといけないのか」という問いや、「地元をリスペクトする」「ここに暮らすことが楽しい」「そういう人が増えたら町も元気になる」といった希望など、文化芸術によってなにが出来るのかを探る話し合いに。また、「そもそも考えているプロジェクトにアートやアーティストが必要なのか」「必要であればアーティストに何を期待するのか」「どういった役割を担ってもらえるのか」についても話が及びました。「デザイナーでも良いのではないか」「何かをお願いしてもいいのか」「コンセプトを伝えてお願いをしないと、同じビジョンを描けないし、期待外れになってしまう」など、アートプロジェクトを考える上で、難しくも、根幹となる対話が交わされました。

連続プログラム ④

## 出発の準備 ｜ 企画案作成

日時 ｜ 2月3日（土）10:00〜16:00
会場 ｜ 舞鶴市中公民館（中総合会館内）



最終日は、これまでの体験を踏まえて企画書を作成するところからスタート。連続プログラムの参加者からは、島で船の周りに鏡を置いて、船が舞っているように見える作品をつくり、鑑賞者の想像の柔軟性を耕すプロジェクトや、放置竹林という課題に対して竹を活用したプロジェクト、外から島を観察して想像した島のスケッチや絵本を展示するプロジェクトなど、これまでの話し合いで膨らんだ企画案が提示されました。そこからさらに企画案に対して、「なぜ、アートプロジェクトをするのか?」という問いが投げかけられます。その問いを受け、知ることのきっかけづくり、表現方法や言語等の獲得、柔軟な発想、視点の転換など、参加者同士で意見を出し合いながら、実施に向けての考えを深めていきました。







### 地域アートマネージャーからのレビュー

地域の課題を、地域でクリエイティブに解決することが求められる時代。本プログラムは、そんな時代の要請に応じるように、地域でアートを担う人材の育成を目的として実施された。そこでは、アートプロジェクトの準備段階で欠かせない、様々な本質的な問いが、参加者たちに投げかけられたが、「遠回りの仕方」と題されたとおり、簡単に辿り着ける答えが用意されたわけではない。けれど、現役の企画者らの話を聞き、彼らとフラットな形で意見を交わしながら学んでいく、とても贅沢な時間を通して、参加者たちが思考を深く掘り下げ、他者の意見から新たな視座を得る姿が頼もしかった。いつか見られるかもしれない、それぞれの「実践編」での、地域におけるアートの新たな展開に期待したい。

**西尾晶子**［山城地域担当］

## 参加者の声

### 感想

**連続プログラム**

▶ 色んな立場も、年齢も、住んでるところも、やってることも、ばらばらの人たちが集まって同じことについて話し合う機会ってなかなかないので、それがすごい単純に面白かったし、舞鶴のこの地に生活してて、地図を使いながら、物理的にも、思考的にも、俯瞰して舞鶴を見ることってなかなかないので、それも面白かったし、外側、海側から見た舞鶴にすごい興味が湧いて、なんかしたいですね。(舞鶴市・20代)

▶ 単純にもとから知り合いの方もいるんですけど、初めて出会った方もいたりして、そういう出会いもよかったなというのもあり、同じことについて、結構長い時間みんなでしゃべってたので、深く知れるところもあったりする中で、今度もしやりたいとしたら、ちょっとみんなでまち歩きなり、船なり、フィールドワーク的なことをしてみたら、新しい発見とか楽しそうだなとか、思ったりしました。(舞鶴市・30代)

▶ 私は初めて舞鶴に来ましたが、プログラムの中でただ新しい知識だけではなく、舞鶴の過去・未来といった時間軸も含めて新たな発見をすることができました!プログラム参加者のいろいろな立場からの意見を聞き、同じものをいろんな視点で見て、その差分を知ることも楽しかったです。(京都市・30代)

**レクチャー**

▶ お二人ともそれぞれ違って楽しかったです。ありがとうございました。(舞鶴市・50代)

▶ 本当は私も、遠回りに参加したかったのですが、休みがとれず…。また別の方法で参加の機会をつくっていただけたら嬉しいです!!(舞鶴市・30代)

▶ 興味深くお話うかがいました。ありがとうございました。(舞鶴市・50代)

**その魅力を広く知ってほしい、守っていきたい、地域づくりに活用したいと思う地域の文化資源**

★ 引揚記念館の語り部をしている。(舞鶴市・70代)

★ かまぼこ、万願寺とうがらし、フェリー乗り場(舞鶴市・20代)

★ 駅前3じょう通りの使われていないビルたち。丸山小学校。(舞鶴市・30代)

★ 何気ない日常と今までの歴史を"リサーチ"してつなげたい。(舞鶴市・30代)

## 舞鶴市で行うアートプロジェクト企画立案のキーワード

- プロジェクトには「たちあげる」→「うごかす」→「のこす」という大きな3つのステップがある
- 「たちあげる」の要素には「想い(なぜそれをやるのか?)/座組(誰とそれをやるのか?)/タイミング(いつそれをやるのか?)」がある。
- 文化(culture)の語源はcultivate(耕す)
- 消費文化に代わる文化が地域活性化の突破口になる
- 外に一度出た人と、地元に居続ける人では視点・価値観が違う
- アーティストは現代(地域の課題・地域の文化資源等)を、精度を高めて観せてくれる
- まずは知らないと考えが至らない、考えたことのない人へのアプローチ、きっかけづくり
- やったことのある経験→表現方法・言語の獲得、武器を増やす
- 正解を決めない柔軟な発想・新しい見方、1つでない評価軸
- ものの見方を変える、視点の転換、想定を超える



地域展開プロジェクト | 福知山市

# 福知山イル未来と2023 ～夜をあそぶ～

城下町として栄えた交通の要衝である福知山市では、地域の文化資源である福知山城を活用した『福知山イル未来と2023』を開催しました。様々な視点や価値観を内包しながら、福知山の夜という時間・空間を捉える「夜をあそぶ」をテーマに据え、京都府在住アーティストたちによる福知山城を活用した大規模な作品展示や様々な企画と共にアートイベントとして実施。アーティストたちによって彩られ、世代を超えて楽しめる"夜のあそび"空間を秋の福知山城に創出しました。

会期 | 2023年10月28日(土)～11月12日(日)※土日祝のみ
時間 | 17:00～20:00
会場 | 福知山城公園
入場 | 無料
来場者数 | 計8,501名(7日間)

アーティスト | 竹一族の陰謀/ Samuel André /上林比東三

主催 | 福知山イル未来と実行委員会
(京都府、福知山市、一般社団法人 福知山青年会議所 ほか)

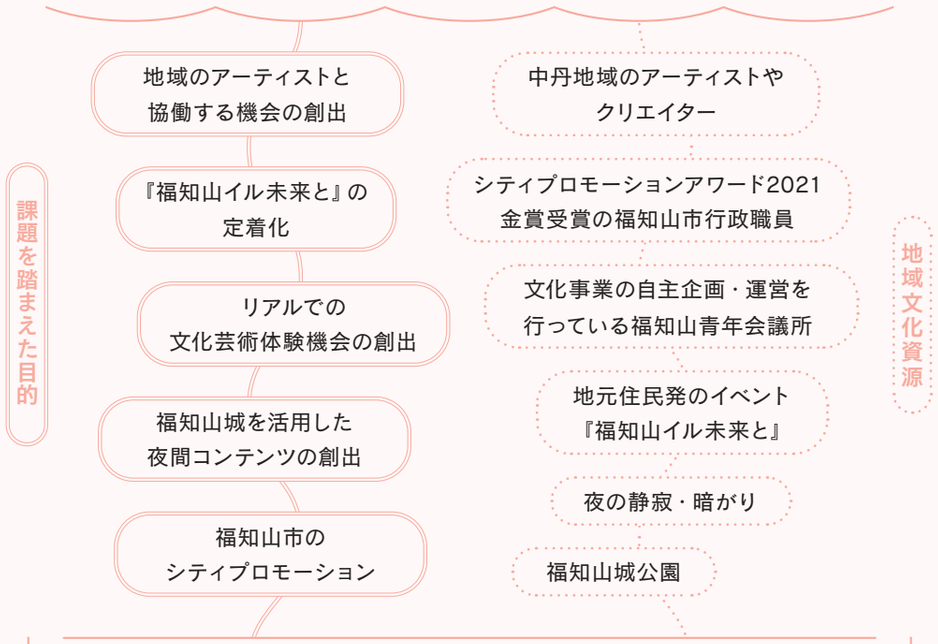
協力 | 福知山商工会議所 青年部/南條工房(LinNe)/福知山観光協会/島原市/ボーイスカウト福知山第1団/福知山公立大学 学生プロジェクト「福知山プロジェクションマッピング2023」「KYOTOストリートミュージックProject」/ YS Trading Service /島原青年会議所

プレイベント | 2023年10月14日(土) 17:00～21:00(計10,000名来場)

コンセプト

# 夜をあそぶ

福知山の夜という時間・空間を「あそび（ゆとり・余白）」と捉え、夜ならではの表現や体験を基軸に、様々な視点や価値観・世代・人々を受け入れる「あそびの場」としてアートイベントを展開。




### 福知山城

天正7（1579）年に丹波を平定した明智光秀が築城した城。明治6年（1873）の廃城令により取り壊されましたが、昭和61年（1986）に市民の瓦1枚運動などの熱意により、3層4階の天守閣が復元されました。転用石が用いられた石垣と、銅門番所（あかがねもんばんしょ）は築城当時のもの。北近畿唯一の天守閣があり、内部には明智光秀に関する資料や福知山地方の歴史・文化財が展示されています。

### 福知山イル未来と

イルミネーションとライトアップを掛け合わせた造語で、福知山に居る（住む）人たちの未来へとつながるという意味が含まれている光の祭典です。2018年から一般社団法人福知山青年会議所を中心に始動。徐々に、構成団体に福知山市や京都府などが加わり、現在では福知山の秋を彩る定番の文化イベントとなっています。

会場・環境



運営体制

主催・企画・広報
- 福知山イル未来と実行委員会
- 京都府（文化芸術課／中丹広域振興局企画・連携推進課）
- 福知山市
- 一般社団法人 福知山青年会議所
- 福知山公立大学

## アーティスト



### 小川はじめ OGAWA Hajime

竹灯籠製作集団「竹一族の陰謀」代表。竹灯籠師。1970年兵庫県生まれ。福岡在住時に「竹灯籠」の魅力に出会い、自身でも製作に挑むようになり福知山市に戻ったのをきっかけに「竹灯籠製作集団　竹一族の陰謀」を設立し代表を務める。京都府北部の放置竹林整備によって伐採された竹を用いて作品を製作し、放置竹林問題にも脚光を当てるようなプロデュース展開を目指している。
2019年「京都デザイン賞」入選を機に各地の観光名所、重要文化財、世界遺産3ヶ所（東寺、平等院、姫路城）等で竹灯籠による空間演出を手掛ける。
体験教室なども各地で多数実施中。



©ANEWAL gallery

### Samuel André サミュエル・アンドレ

サウンドアーティスト。フランス出身・京都市在住。大学時代は数学と認知科学を学び、卒業論文のテーマとして音楽インターフェースを学んだ。実際に2021年から寺院で禅を修行し、もともと神道や仏教の儀式に捧げられていた京都の職人が作った伝統工芸品「おりん」を探求し、LinNeとして彼の音楽に取り入れている。
音楽の空間化、その場での音楽、サウンドスケープ、フィールドレコーディング、実験的、音響的な音楽を求めて、画家、詩人、建築家、ダンサー、フラワーアーティストのような異なる分野の人々とのコラボレーションを積極的に行っている。



### 上林比東三 KANBAYASHI Hitomi

流木アーティスト。舞鶴市在住。自動車鈑金塗装店「カーペイント・ヒトミ」オーナー。2016年頃から流木アートの制作を開始。海で拾った流木を器用に組み合わせて、宇宙人や妖精、動物らしき生き物など奇妙な形状の立体物を数多く生み出している。そのほか、写真やエアブラシによる絵画制作、漂白剤を使ったオリジナルTシャツの制作なども手掛け、独特な世界観を展開している。近年、アウトサイダーアーティストとして注目が高まり、展覧会への出品やメディア出演が続き、舞鶴市以外でも積極的に紹介されている。

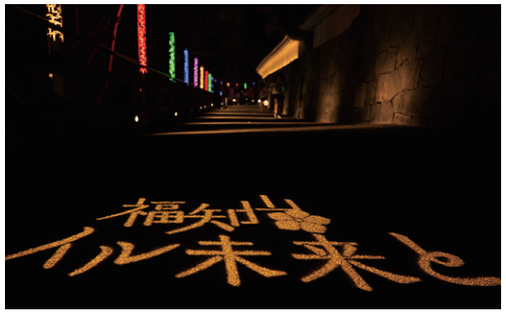
作品展示 ①

## 福知山城 × 竹灯籠イルミネーション

小川はじめ／竹一族の陰謀








高さ40センチメートルほどの竹灯籠「華灯り」と「星灯り」の放射状に広がる柔らかな光に、鮮やかな色彩で明滅を繰り返すドーム型の「半球イルミネーション」などで構成された、福知山城公園を彩る大規模イルミネーション。放置竹林整備によって伐採された竹と人工の光により、この時代ならではの“光のあそび場”を福知山城本丸広場に創出しました。竹一族の陰謀の代表・小川はじめ氏は、職人の技術と自然の恵みから幻想的な風景をつくりだした本作から、「身近な環境にも思いをはせてほしい」と語ります。



作品展示 ②

## サウンド・インスタレーション《音・風・光》

Samuel André







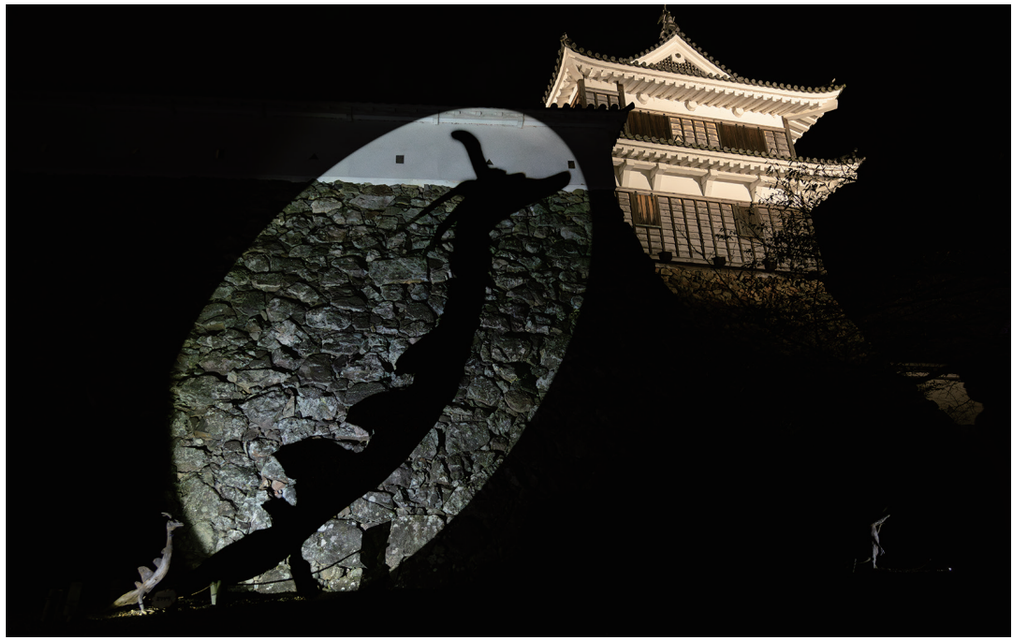


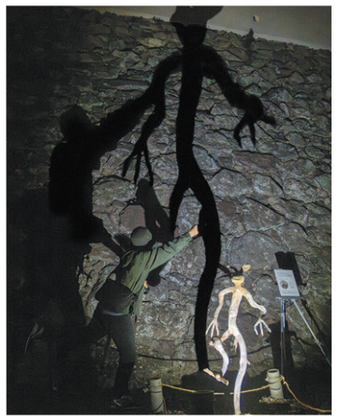
スピーカーから流れる海や山をイメージしたオリジナル楽曲と、福知山城公園の各所に設置された風が奏でる伝統工芸品「おりん」、銅門番所に設置された「琴」の音で構成されたサウンド・インスタレーション。サミュエル・アンドレ氏は福知山城を訪れたとき、この場所はまるで「陸の孤島のようだ」と感じ、島国である日本列島を想起しました。流れるサウンドには波音などをはじめとした自然音が使用されており、島国として独自の文化を育んできた日本という国のように、個として素朴な心でたゆたえる時間感覚へと鑑賞者を導きます。また、予測できない風で柔らかな音を響かせるおりんや琴の音がサウンドに重なることで、人と自然の調和から生まれた音風景が生まれ、竹灯籠イルミネーションの光とともに鑑賞者を優しく包み込みました。

作品展示 ③

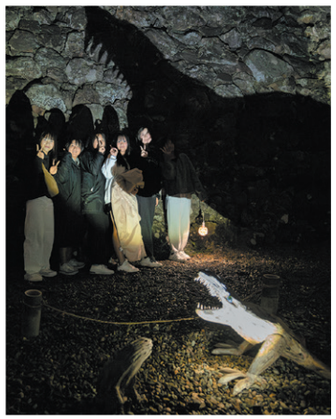
## 流木アート × 影絵インスタレーション

流木アート ｜ 上林比東三









舞鶴市在住のアーティスト・上林比東三氏による流木アート作品の影と、福知山城の広大な石垣に着目した影絵インスタレーション。流木らしさを残しつつも精巧な仕上がりに目をみはる流木アートも、夜には様相が一変しました。暗闇に浮かび上がる天守閣と巨大な影絵に、サミュエル・アンドレ氏のオリジナルサウンドが加わり、遊び心をくすぐる“あそぶ夜”を演出。石垣に映し出された巨大な影絵には、鑑賞者自身の影も加わる余白を残し、新たな影絵作品を生み出す参加型アートとして、鑑賞者に福知山城の“夜をあそぶ”試みを提示しました。



### 常時イベント

① ゆるキャラ大集合
② 竹まり行燈・手持ち行燈レンタル
③ お城のふもとでストリートピアノ
④ キッチンカーブース

### 日替わりイベント

① ハロウィン仮装イベント
② おりん演奏パフォーマンス、演奏体験
③ 番傘イルミネーション
④ 紅葉ライトアップ　　等

### Pickup

おりん演奏パフォーマンス、演奏体験





サウンドアーティストのサミュエル・アンドレ氏による、伝統工芸品「おりん」を用いた神秘的な演奏パフォーマンスを実施。おりんの演奏体験も行い、アーティストと来場者の交流にも繋がりました。

開催日 ｜ 2023年10月29日（日）／11月11日（土）／12日（日）
時間 ｜ 1回目18:00〜／2回目19:00〜
会場 ｜ 福知山城本丸広場
出演 ｜ Samuel André
協力 ｜ 南條工房／LinNe

## 来場者の声

### ✎感想

▶ イルミネーションがきれいだったので、また行きたいです。（福知山市・〜10代）

▶ 色々なイルミネーションがあって面白い。これからも期待しています。（福知山市・〜10代）

▶ 普段何気なく見ていた福知山城をしっかり見るきっかけになった。（福知山市・30代）

▶ 幅広い世代の方が足をはこんでいることがとても印象的でした。（福知山市・30代）

▶ すごくキレイでした。つづけてほしいです。（綾部市・30代）

▶ きれいで傘のアートや恐竜のやつが楽しかった。とてもキレイでした！もう少しお城とかけ合わせたイルミネーションも見てみたいです。（宇治市・20代）

▶ 影絵がおもしろかったです。（綾部市・50代）

▶ 手に持つライトがかわいかったしふんいきに合ってて良かったと思いました。（兵庫県・〜10代）

▶ きれいで木のおりんの工夫がよかった。ピアノの演奏にひかれて立ち寄りました。（京都市・30代）

### その魅力を広く知ってほしい、守っていきたい、地域づくりに活用したいと思う地域の文化資源

★ 福知山城（福知山市・40代）

★ 福知山ドッコイセまつり（福知山市・〜10代・20代・50代）

★ 丹後二俣紙について広く知ってほしいと思う（福知山市・10代）

★ 丹波福知山御霊まつり、明智光秀（福知山市・〜10代）

★ 梅干し半十郎さん（梅干し半十郎観音）（福知山市・40代）

★雲海をもっとアピールしてほしい（福知山市・40代）

★ 広峯15号墳を多くの人に知ってもらいたいです。（福知山市・30代）

★ 額田（ぬかた）のダシ行事、長者森古墳（福知山市・10代）

★ ジビエ（福知山市・20代）

★ 福知山踊り（福知山市・30代）





KYOTOHOOP 公式YouTube
『福知山イル未来と2023 〜夜をあそぶ〜』記録動画、おりん演奏パフォーマンスの動画を公開しています。



# 南丹地域

京都府中部の南丹地域は、大都市に近接し、京都市内への通勤通学者も多く、高い利便性を有しながらも、豊かな森林や田園風景に恵まれた「森の京都」の魅力が詰まった地域です。古くから京の台所を支えてきた食の宝庫でもあります。京阪神地域等へのアクセスの良さを背景に、高い技術力を有する多種多様なものづくり企業が立地し、環境やものづくり、建築、医療等様々な専門分野にわたり特色ある大学や大学校等が集積していることから、産学公連携による人材育成、食や農の分野における産業イノベーションも期待されています。



地域プログラム ｜ 南丹市

# アンサンブル探求基地

## ～ 音楽家ヤニック・パジェ氏が奏でる音楽×物理学×陶芸?! ～

2020年のアーティスト・イン・レジデンス事業『京都:Re-Search 2020 in 南丹』を契機に、アーティストの移住促進やアートイベントが開催されている南丹市・八木駅前商店街。川のせせらぎ、楽しそうな話し声、扉が開く音など、自然と人が奏でる“音”が心地よく響き合うこの地で、「アンサンブル（調和・共鳴）」を探求する現代音楽イベントを開催。

プログラムアーティストには、音楽・物理学・陶芸という一見異なる分野を融合させたコンサート《量子／QUANTUM（クォンタム）》等で注目されている音楽家のヤニック・パジェ氏を迎え、約400年の歴史をもつ元酒蔵で、異なる物事から生まれる調和や共鳴のおもしろさを体感する〈コンサート〉〈音楽ワークショップ〉〈楽器展示〉を展開しました。

会期 ｜ 2024年1月18日（木）～1月21日（日）
会場 ｜ 八木酒造／南丹市八木防災センター
入場・参加 ｜ 無料
参加者・来場者数 ｜ 計174名

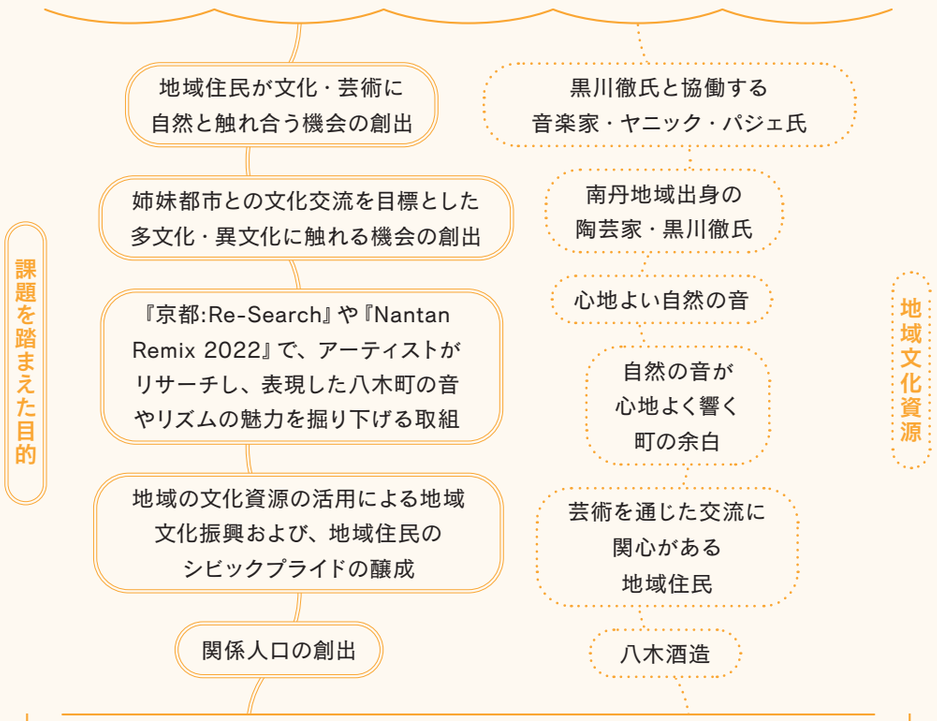
出演・講師 ｜ Yannick Paget（指揮者・作曲家・演出家・打楽器奏者）
展示 ｜ 黒川徹（陶芸家）
照明 ｜ 木内ひとみ
写真撮影 ｜ 合同会社ウミアック

主催 ｜ 京都:Re-Search実行委員会（京都府、南丹市 ほか）
制作マネジメント ｜ N'SO KYOTO（パートナー：株式会社ガルーダシップ）
協力 ｜ 南丹市八木町 南地区自治会／南丹市商工会

コンセプト

### アンサンブル（調和・共鳴）

分野や価値観、様々な境界を超えた協働へのヒントとして、異なる物事を“共鳴”させて音楽作品をつくりあげるヤニック・パジェ氏を招いた現代音楽イベント。




**八木酒造**

約400年の歴史を有する八木酒造有限会社の元酒蔵。2006年～2016年には、有志により酒蔵ライブ『歌聴風月』が行われ、著名ミュージシャンを招いた同ライブは人々の心を動かし、その後八木町内では、バンドや野外ライブの実行委員会が結成されるなど、芸術活動の輪が広がるきっかけとなった場所。また、近年では現代アーティストや美術家などから、展示会場としても注目を浴びています。

会場·環境

## 運営体制

主催・企画・広報
- 京都:Re-Search実行委員会（南丹部会）
- 京都府（文化芸術課／南丹広域振興局企画・連携推進課）
- 南丹市（地域振興部）

制作マネジメント ｜ N'SO KYOTO

## アーティスト等



©Patrick Sherlock

### Yannick Paget

ヤニック・パジェ

指揮者・作曲家・演出家・打楽器奏者。フランス出身・京都府在住。指揮者の佐渡裕をパリや日本にてアシスト。クラシック音楽から現代音楽まで幅広く手掛け、ヨーロッパやアジアで指揮活動（堤真一や渡辺謙との共演を含む）を行う。自身が率いるアンサンブルであるN'SO KYOTOと共に「オーケストラ」の概念を再解釈し、没入型で多様な表現方法を用いたパフォーマンスを観客に提案している。

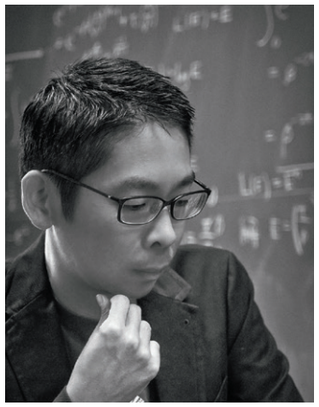


©okuyama haruhi

### 黒川徹

くろかわ・とおる

陶芸家。亀岡市出身・京都府在住。素材が内包する力学と身体感覚をもとにした「野生の数学」をテーマに作品制作を行う。アジアや中東など約10カ国で滞在制作を行い、古来からの思想と造形、また物理学や数学との接点を探っている。クラインの壺やメビウスの帯のような、内と外のない造形を特徴とする。2022年Rising Talent Awards Craft 受賞。



### 橋本幸士

はしもと・こうじ

物理学者。京都大学大学院理学研究科教授。専門は素粒子論(弦理論)。著書に『物理学者のすごい思考法』(インターナショナル新書) など。物理学の研究の一方、映画『シン・ウルトラマン』の物理学監修や、舞台『Everyday is a new beginning』に立つなど、広く芸術やメディアと物理学の融合を試みている。

## 3人を繋いだ「弦理論」とは?

素粒子という、物質を構成する最小の形が「弦のように共鳴している」とする仮説のこと。この説では、その共鳴する弦がどのように組み合わさっているかによって、宇宙のあらゆる「かたち」がつくられると考えられています。



## 音を知る — セラミック楽器（陶芸作品）の展示

### CERAMOPHONE（セラモフォン）

黒川徹







会期 ｜ 1月18日（木）〜1月20日（土）
時間 ｜ 10:00〜16:00　※20日（土）は13:00まで
会場 ｜ 八木酒造
来場者数 ｜ 計27名

共同制作 ｜ Yannick Paget
照明 ｜ 木内ひとみ
写真撮影 ｜ 麥生田兵吾（合同会社ウミアック）

CERAMOPHONEは、コンサート《量子／QUANTUM（クォンタム）》のために制作された楽器作品であり陶芸作品。2015年頃より弦理論や数学をテーマに陶芸作品を制作している黒川徹氏が、ヤニック氏との出会いを契機に2019年頃より手がけている作品群です。「空洞の中に本質がある」と黒川氏が語るように、CERAMOPHONEはこの世界を構成する目に見えない共鳴をさらに増幅させ、約400年の歴史を持つ八木酒造の空間と鑑賞者にも、その共鳴を響かせていました。

## 音づくりワークショップ　講師 | Yannick Paget







日時 | 1月21日（日）10:00〜12:00
会場 | 八木酒造／南丹市八木防災センター
対象 | 小学1年生〜6年生
参加 | 無料
参加者数 | 9名（定員15名）

写真撮影 | 金サジ（合同会社ウミアック）

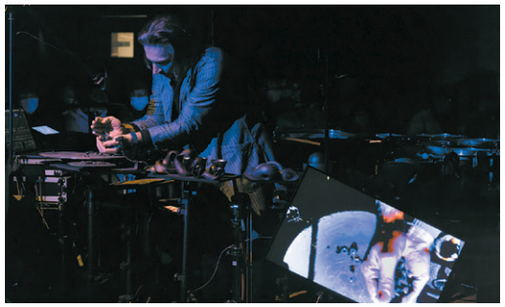
ヤニック氏による、子どもたちの感性と創造性を刺激する現代音楽ワークショップ。参加者が持参した陶器・木・ガラスなどを素材とする身近なモノと、八木酒造で使われていたモノを楽器に見立て、それぞれの音色や音の高低をヤニック氏とともに丁寧に探っていきました。そして、見つけた音をヤニック氏が提示する簡単なリズム譜に当てはめて音楽を奏でました。最後には、ヤニック氏の即興演奏が加わり、音の重なりやループ音を織り交ぜながらのパフォーマンスを保護者に披露しました。

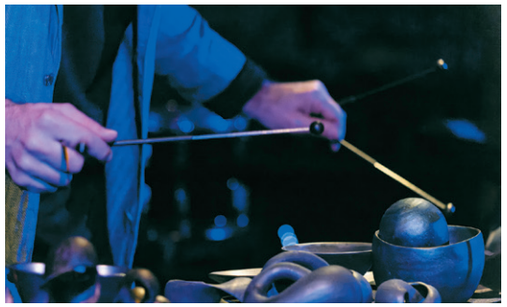




## 《量子／QUANTUM（クウォンタム）》　作曲・演奏 | Yannick Paget







日時 | 1月20日（土）15:00〜15:50
　　1月21日（日）14:00〜14:50
会場 | 八木酒造
来場者数 | 計138名（各日定員70名）

共同制作 | 橋本幸士
CERAMOPHONE制作 | 黒川徹
照明 | 木内ひとみ
写真撮影 | 金サジ（合同会社ウミアック）

「ご自身が粒子の上に乗っているように想像してください。量子の旅に出発しましょう」。橋本幸士氏のアナウンスから始まった本作は、2022年にヤニック氏と橋本氏が共同で制作した《Consciousness（コンシャスネス）》弦理論交響曲の第2楽章。Consciousnessとは「意識」、つまり気付くことであり、目に見えない世界を音の共鳴で表現しようとする3人のコラボレーションのように、鑑賞者を目でみることができない自身の内側へと向かわせ、音と溶け合える上質な音楽体験へと誘いました。

# アフタートーク

日時 ｜ 1月21日（日）15:00〜15:40
登壇者 ｜ Yannick Paget／黒川徹／橋本幸士

異色のコラボレーションによって生まれた《量子／QUANTUM》の制作背景、プログラムテーマのアンサンブル（調和・共鳴）について掘り下げるアフタートークを実施。コラボレーションの始まりは5年前の橋本氏とヤニック氏の出会いに遡り、橋本氏が研究する弦理論をヤニック氏が音楽のようだと感じ2人が意気投合。同時期に、以前より弦理論に着目した制作を行っていた黒川氏とヤニック氏の出会いが重なり、共通のテーマでつながった3人の共創が始動しました。この世界を理解していくために様々な共鳴を探し研究する橋本氏は、作家2人が弦理論を音楽言語・陶芸技術でひも解いていく制作過程の中で、対話により互いの想いや考えを共有できたことは、3人が抱く宇宙の不思議、未知に対する情熱を共振させる作用があったといいます。3人が専門とする異分野が調和し、共創が実現した要素として橋本氏からは、量子が原子力のもとであるように、情熱をもってプロジェクトに関わり、様々な考えを声という「音」を通じて身体で送受信をする「会話」の重要性が示唆されました。また、ヤニック氏は八木酒造で本プログラムを実施したことにより、音による共鳴は人同士だけでなく、場、そして場が内包する歴史とも可能であることを実感したと語りました。





## 地域アートマネージャーからのレビュー

「耳を澄まして周りの音を聴いてみましょう」。ヤニックさんの呼びかけから始まったワークショップ。素材選び、音探し、演奏と進んでいくにつれて、子どもたちの表情がいきいきと輝きを増しているのが印象的でした。音楽・物理・陶芸という異分野の3名の熱い対話から生まれた“音楽言語”が織りなすアンサンブルは、元酒蔵の空間と会場にいる人すべてを包み込み、それぞれの心に響き一体となる感覚でした。作品は宇宙の最小単位：量子に着目していますが、日常で対峙する単位（家族、友人、自治体、地域イベント、社会活動など）での協働においても、対話するプロセスを大切にすることで素晴らしい共鳴現象を起こせる可能性を感じました。

**甲斐少夜子［丹後地域担当］**

## 参加者・来場者の声

### 「アンサンブル（＝調和・共鳴）」について興味や関心は高まりましたか？

回答件数 ｜ 73件（コンサート来場者）
とても高まった ｜ 21.9%　高まった ｜ 45.2%　変わらない ｜ 16.4%　無記入 ｜11%
その他 ｜ 5.5%（コンセプトはシンプルな方がよい・むずかしくてよくわからない・ただただびっくり）

### 感想

#### ワークショップ

▶ 生活の中に音がたくさんあって、音楽を楽しもうと思った。（3年生）

▶ 1人でしているとなんか変なかんじがしたけどみんなでしたりきかいをつかうことで曲がもっとよくなることが分かりました。（4年生）

▶ 音域に合わせておくことが大切なんだと思いました。一人ひとりそれぞれの音を持っていることに気づきました。まだちょっと遠りょがちの音。（5年生）

#### コンサート

▶ 物理についてもう少し理解したいと感じました。企画が今まで見たことがないものだったので新しい視点から聴く事ができたと思います。（京都府外の都道府県・30代）

▶ 0才の子と参加しましたが全年齢OKにしていただいてありがとうございました。前のめりになってきいていて、増幅機にあわせて似たような声を出したりして楽しんでいました。（南丹市・30代）

▶ “場所も楽器の一部だ”という言葉がとても心に残りました。（京都市・20代）

▶ 地球そのものから湧き出る音、太古から生命に聴かれてこなかった音を聴けたような気がしました。そして、音を通じて歴史も感じられるようなとても貴重な体験をさせて頂けました。ありがとうございました。（亀岡市・40代）

▶ 場所と作品の調和が美しかった。（京都市・50代）

▶ 田舎では体験しにくい企画で楽しめました。ありがとうございました。難しいことは判りませんが振動に共鳴していたんですね。平和！（南丹市・60代）

### その魅力を広く知ってほしい、守っていきたい、地域づくりに活用したいと思う地域の文化資源

★ “アート”によるエリア覚醒が期待できるエリアであり、すでに若手気鋭のアーティストも定住し始めている。それだけに、ディレクターはイベントを成果的にするのではなく、（京都市内とは違った）生活の中にアートを仕込み根付かせるインフラを是非めざしてほしい。“温故創新”を体感できるアートクラスターの可能性を実感します！（京都市・60代）

★ もくじきさん、丹波音頭（南丹市・30代）

★ 麦畑の風景とか。（亀岡市・30代）

★ 納豆もちがおいしくて好きです。（京都市・40代）

★ 清源寺の木じきさん（南丹市・70代）

# 山城地域

京都府の南部に位置する山城地域は、京都・奈良・大阪を結ぶ歴史的文化地域です。奈良時代の平城京と平安時代の平安京の両文化の影響を受けながら発展し、『万葉集』をはじめ、『源氏物語』や『平家物語』にも縁の深い地域で、歴史的文化遺産が数多く残されています。また、暮らしや地域産業に結びついたお茶文化など、山城ならではの豊かな文化に恵まれています。けいはんな学研都市など、企業や研究施設が集まり最先端の科学技術が生み出されるエリアと、茶畑景観など日本の原風景ともいえる豊かな文化資源を持つ農山村エリアが混在する多様な地域特性を有しています。




宇治市　京田辺市　宇治田原町
城陽市　木津川市　笠置町
向日市　大山崎町　和束町
長岡京市　久御山町　精華町
八幡市　井手町　南山城村



地域プログラム ｜ 城陽市

## アスレチック型コンサート ～オーケストラで遊ぼう！～

多数のコンサートホールを有する山城地域では、昨年度に引き続き、次世代を中心とした音楽鑑賞者育成を目的とする体験型コンサートを開催しました。即興演奏家の片岡祐介氏や、京都を拠点に活動する和み交響楽団を出演者に迎え、誰もが口ずさめるスタンダードからクラシックの名曲まで様々な楽曲の演奏や、リズムを使った音遊びなどを実施。アスレチックのようにワクワクする“遊び”が仕掛けられたコンサートで、上質なコンサートホールの音を全身で感じるプログラムを行いました。

日時 ｜ 2023年11月19日（日）14:00開演／ 13:30～受付
会場 ｜ 文化パルク城陽 プラムホール（東館2F）
入場 ｜ 無料／自由席
対象 ｜ 小学生以上
来場者数 ｜ 350名（定員600名）

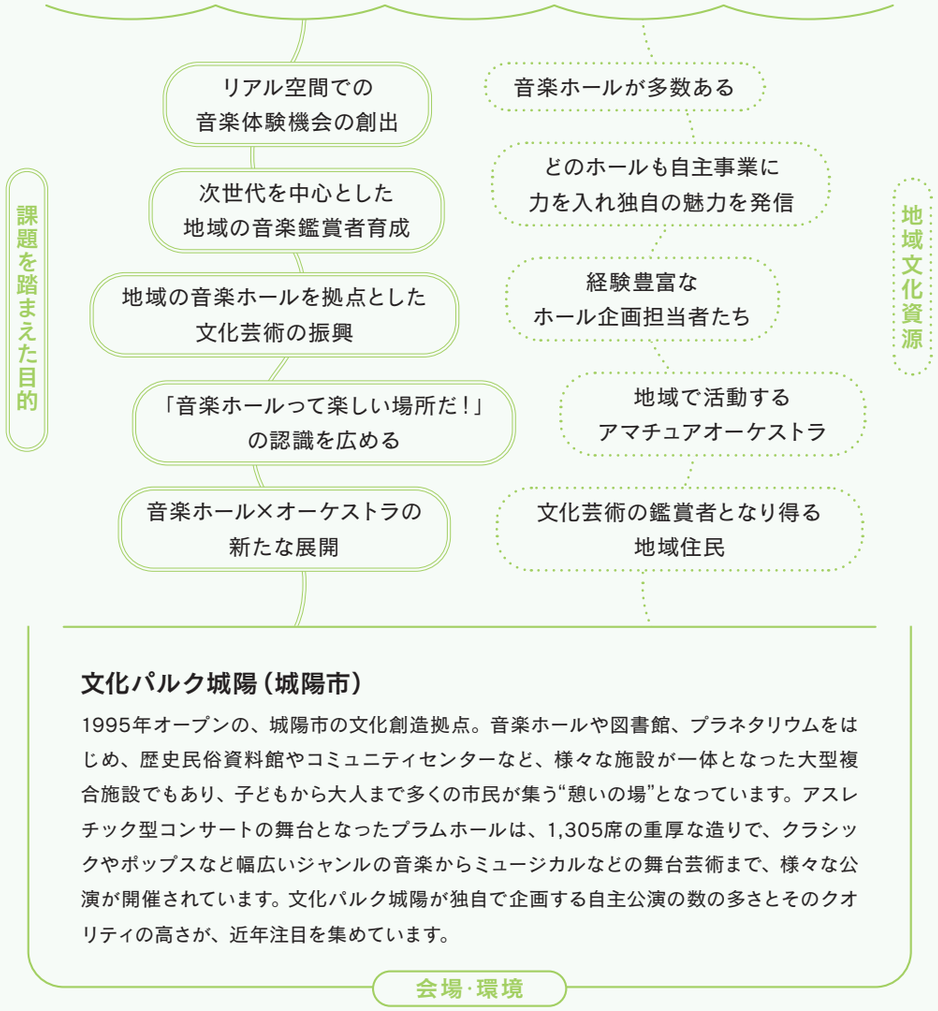
出演 ｜ 片岡祐介（音楽ファシリテーター）、和み交響楽団（演奏）
写真撮影 ｜ 佐々木香輔

主催 ｜ 京都:Re-Search 実行委員会
（京都府、城陽市教育委員会、公益財団法人城陽市民余暇活動センターほか）

コンセプト

## アスレチック型コンサート

リズム・音の強弱・ハーモニーなど音楽を構成する要素を使って遊ぶ、楽器のすぐ近くで音を聴いてその振動を感じるなど、“遊び”を通して身体の使い方を学ぶアスレチックのように、奏者との音遊びを通して聴衆が能動的に音楽の楽しみ方を獲得するコンサート。




### 文化パルク城陽（城陽市）

1995年オープンの、城陽市の文化創造拠点。音楽ホールや図書館、プラネタリウムをはじめ、歴史民俗資料館やコミュニティセンターなど、様々な施設が一体となった大型複合施設でもあり、子どもから大人まで多くの市民が集う“憩いの場”となっています。アスレチック型コンサートの舞台となったプラムホールは、1,305席の重厚な造りで、クラシックやポップスなど幅広いジャンルの音楽からミュージカルなどの舞台芸術まで、様々な公演が開催されています。文化パルク城陽が独自で企画する自主公演の数の多さとそのクオリティの高さが、近年注目を集めています。

会場·環境



運営体制

主催·企画·広報
- 京都:Re-Search実行委員会（山城部会）
- 京都府（文化芸術課／山城広域振興局 企画·連携推進課）
- 城陽市教育委員会（文化・スポーツ推進課）
- 公益財団法人城陽市民余暇活動センター

## 出演者



(c)Rina Nakano

### 片岡祐介

かたおか・ゆうすけ

打楽器奏者·即興演奏家。1969年生まれ。子どもの頃から作曲や即興演奏に興味を持ち、木琴やピアノの演奏を自己流で始める。東京音楽大学を中退後、映画やコマーシャル音楽での経験を積んだ後、97年から2000年まで、岐阜県音楽療法研究所にて研究員として勤務し、障害児者との共演を多数おこなった。06年にはNHK教育テレビの幼児向け音楽番組『あいのて』に出演し、生活の中の身近なものを使って音を作り楽しむことを伝えた。現在は、YouTubeのライブ配信機能を使って、観客とやり取りしながら演奏するコンサートを開催したり、クラシック音楽を解説しながら演奏するコンサートや、即興演奏や歌づくりなどのワークショップもおこなっている。著書に、CDブック『即興演奏ってどうやるの』（共著 あおぞら音楽社）がある。



### 和み交響楽団

なごみ・こうきょうがくだん

2007年に結成されたアマチュアオーケストラ。「和み」という名前には、「一緒にいると和める仲間でありたい」「演奏を聴きに来たお客さんに和んでもらいたい」「和（＝ハーモニー）を大切にした音楽をしたい」という想いが込められている。ブラームス自身も好んだとされ、彼の《交響曲第3番》（当楽団第1回定期演奏会曲目）のモチーフでも知られる「Frei aber Froh（自由に、しかし楽しく）」を合言葉に、「和み」の音楽を目指して日々努力を重ねている。 結成以来、京都コンサートホールで定期演奏会を行っており、ブラームスの4つの交響曲やベートーヴェンの《英雄》《田園》といった定番の名曲に取り組む一方、マーラーの交響曲、スメタナ《我が祖国（全曲）》などの大曲や、エストニア人作曲家レンバの《交響曲第1番》（日本初演）等、知られざる名曲にも挑戦している。

## メインプログラム

時間｜14:00〜15:30
出演｜片岡祐介（音楽ファシリテーター）、和み交響楽団（演奏）



片岡氏、オーケストラ、客席が一体となったアスレチック型コンサートの様子



《オーケストラとリズム遊び!》で、手拍子で参加する客席の様子



《だったん人の踊り》で、オーケストラのすぐ近くで演奏を聴く鑑賞者たち

♪ どこから聴こえてくる?
〜《かえるの合唱》本気version　片岡祐介編曲

♪ ラデツキー行進曲　J.シュトラウス

♪ ワルツィング・キャット　L.アンダーソン

♪ ハンガリー舞曲 第5番　J.ブラームス

♪ オーケストラとリズム遊び！　片岡祐介編曲

♪ だったん人の踊り（歌劇《イーゴリ公》）より　A.ボロディン

♪ エニグマ変奏曲より第9変奏ニムロッド　E.エルガー



## サブプログラム





### ① ホール探検ツアー

上質な音を響かせる音楽ホールの秘密を探るホール探検ツアーを実施。普段は見ることができないバックステージを、解説を聞きながら見学したり、本番のセッティングがされたステージで楽器を鳴らしたり、1階と3階での音の響きを聴き比べるなど、来場者は音楽ホールでの探検を楽しんでいました。

時間 ｜ 12:45〜13:15
集合 ｜ 文化パルク城陽 プラムホール ホワイエ
参加者数 ｜ 15名（定員 20名）
案内 ｜ 中尾浩二・西田陽子（文化パルク城陽）





### ② トークセッション
### 〜アーティストともっと話そう！もっと遊ぼう！

音楽ファシリテーター・片岡氏と、企画者の山城地域担当の地域アートマネージャーによるトークセッションを実施。体験型のコンサートだからこそ子どもたちと親子で参加できた、といった来場者の感想や、オーケストラ鑑賞についての意見、片岡氏への音楽制作に関する質問など、アスレチック型コンサートの余韻を楽しむように会話が弾みました。また、片岡氏からは、行政が無料のコンサートを行う意義や、視覚優勢文化の現代で聴覚文化（音から情報を得る文化）の重要性も共有されました。

時間 ｜ 15:45〜16:30
会場 ｜ 文化パルク城陽 プラムホール ホワイエ
参加者数 ｜ 30名（定員 50名）

## 解説・講評

柿塚拓真

メインコンサートは事前のアナウンスや挨拶はなく、舞台そして客席の中に設置された演奏箇所への楽団員の入場で始まった。そして片岡氏他2名の演奏者が舞台中央のせりに腰掛け、おもむろにあえて強くない音で《かえるの合唱》の演奏を始め、次第に客席側の演奏者もその輪唱に加わる。演奏者間の距離があるので音の指向性や時間のズレも生まれ、ホールの広さと音響を聴覚と視覚で楽しんだところで、舞台上のオーケストラも加わり、これぞオーケストラという大合奏になる。開演前のソワソワとした雰囲気から始まり、気付いたら音楽の渦に巻き込まれていく。つまり日常と音楽の境目、断絶がなく自然と鑑賞する態度に導かれる構成だ。次に続くワルツィング・キャットでは進行役の片岡氏が客席に降りていき聴衆（主に子ども）にマイクを向けて、それぞれの思い思いの猫の声を拾いながらその後に演奏を続けた。躊躇する子どももいそうなものだが、おそらく公演の始まり方が日常と地続きだったからだろう、そうはならなかった。

これらのズレや距離による音の渦も、客席の反応と演奏の相互作用も、日常生活であれば「遊び」として自然に発生する面白さや喜びのはずだ。ただ一般的なクラシック音楽、特に大人数が一度に演奏するオーケストラ公演では全員が合わせるために段取りを必要とする。しかしその段取りを踏襲する過程で、あり得たはずの音楽の美しさ、表現の楽しさを見逃していたり、切り捨てていたりすることが多い。しかし今回の公演では片岡氏がその音楽の「美味しさ」を再び拾い上げ舞台上の約束事との間の通訳をし、その間にある垣根をほぐしたと言っていいだろう。そうすると途端にホールが遊び場になり、音楽あるいは音楽家が遊び相手になる。このような事業が増えれば事業の目的の1つにあるように「聴衆が能動的に音楽の楽しみ方を獲得する」状況に自然となっていくであろう。



《ワルツィング・キャット》では、音楽に合わせた猫の鳴き声で鑑賞者も演奏に参加。

**柿塚拓真**　かきつか・たくま

公益財団法人九州交響楽団 音楽主幹補佐。福岡第一高等学校音楽科、相愛大学音楽学部卒業。これまで社会保険庁福岡社会保険事務局、日本センチュリー交響楽団、神戸市民文化振興財団他で勤務。2013年にブリティッシュ・カウンシル主催の英国派遣プログラムに参加。2019年国際交流基金アジア・フェローシップ。

## 地域アートマネージャーからのレビュー

このプログラムは、演奏者や指揮者による演奏、鑑賞者の鑑賞方法、どちらも普段私たちが一般的に演奏会と聞いて想像するものより自由度が高く、まさに参加したすべての人がアスレチック広場を軽やかに駆けるように、進んでいきました。鑑賞者が静かに演奏をじっくり聴くというのも、文化ホールでの鑑賞体験の重要な一部ですが、今回のような自由度を高めてより楽しく参加して、聴くというあり方も文化ホール活用の1つの例でしょう。この「参加者全員による創造的な体験の場づくり」を、さらに自由に想像し、創造していくかは、企画者、演者、スタッフ、舞台関係者、そして、参加者の新たな技術の発掘・習得などにより可能性がまだまだ残されていると感じさせてくれました。

**朝重龍太**［中丹地域担当］

## 参加者の声

### 音楽ホールへの関心は高まりましたか？　回答件数 | 257件

とても高まった | 51.4%　　高まった | 35.4%　　変わらない | 9.7%　　無回答 | 3.5%

### 感想

- とてもおもしろかったです。コンサートの静かにしないとという空気がなかったので楽しかったです。（城陽市・〜10代）
- 電子的な音が溢れる中、子どもに生音に触れてほしいと思い娘と参加しました。特別な楽器がなくても、自分の身体や声だけで、音楽を分かち合えることを教えてくれてありがとう！（京田辺市・40代）
- 片岡祐介さんの演出がとてもよかったです。最後の、音を体にしみ込ませる方法が素晴らしかったです。ありがとうございました。（他の都道府県・50代）
- 無料ということで税金が投入されていると思いますが、良い税の使い方だと思いました。税がきちんと還元されているのを実感しました。いろいろな企画を有意義な実践（イベント）として頂ければと思いました。子どもたちが興味津々の様子でとてもよいイベントでした。（宇治田原町・60代）

### 音楽ホールでこんなことがしたい

- 楽器体験（宇治市・〜10代　ほか多数）
- 子どもがのびのび参加できて、子連れでも親が気を使わないオーケストラのコンサート。（京田辺市・40代）
- 身体を動かしながら音楽を楽しみたい。好きな楽器持参で参加するコンサートも楽しそう。（向日市・40代）
- 感覚過敏や少しじっとしていられないなどの子どもたちが、音楽ホールの存在に慣れ親しめる機会があったら嬉しいなと思います。（八幡市・40代）
- 今回の参加型はとっても楽しかったです。こどもと一緒に行動しているので、こども向けミュージカル、こどもが出演しているミュージカルがあれば絶対行きます。やはり、出演者と距離の近いものはワクワクします。（宇治市・40代）



オーケストラと一緒に声を出してみる。



舞台上で聴くという体験に興味津々。

地域展開プロジェクト ｜ 宇治市

# 宇治アートプロジェクト

千年前に生まれた源氏物語「宇治十帖」を手がかりに、宇治ゆかりの歴史や古典文学を学び、“今ある宇治の魅力”を探り、発信するプロジェクトを実施しました。〈写真ワークショップ〉と〈展示〉の2部に分けて構成される本プロジェクトは、次世代を担う地域の子どもたちを中心に、地域で語り継がれてきた歴史や古典文学を振り返ることでその魅力を再確認するとともに、写真やカメラを通して新たな視点で理解し、表現し伝達することの可能性を探りました。また、制作から発表までの過程を体験し、公園や駅などの公共空間を会場にした〈展示〉を通じて、特に子どもたちの意欲や達成感、自信を得る一歩となることを目標に実施しました。

開催期間 ｜ 2023年12月2日（土）～2024年2月18日（日）
会場 ｜ 宇治市内各所
参加・入場 ｜ 無料
参加者・来場者数 ｜ 計46,806名

講師 ｜ 吉田亮人（写真家）
Marguerite Paget（KYOTOGRAPHIEキッズプログラム統括）
坪内淳仁（宇治市源氏物語ミュージアム学芸員）

主催 ｜ 京都:Re-Search実行委員会（京都府、宇治市 ほか）

企画運営 ｜ MUZ ART PRODUCE
機材協力 ｜ キヤノンマーケティングジャパン株式会社
教材協力 ｜ KYOTOGRAPHIE
運営協力 ｜ 宇治写真協会

コンセプト

## 宇治×写真で“現代写真絵巻”をつくろう

誰もが手軽に親しめる写真表現を通じて、
参加者とともに地域の歴史や文化を再発見し、発信するプロジェクトを展開。

課題を踏まえた目的

- 観光客が注目する宇治市の歴史と文化の基礎的教養の習得
- 地域の魅力発見による地域住民としてのシビックプライドの醸成
- 表現する喜びを体感する芸術体験の創出

地域文化資源

- 源氏物語「宇治十帖」などの古典文学
- 宇治市源氏物語ミュージアム
- 点在する世界文化遺産
- 景観（宇治公園、宇治川など）
- 宇治上神社、宇治神社、宇治橋などの歴史
- 宇治写真協会

実施場所① **宇治市**

平安貴族の別荘地として親しまれ、源氏物語「宇治十帖」の舞台にもなっている宇治市は、世界文化遺産の平等院や宇治上神社をはじめ、数多くの名勝・史跡に恵まれたまちです。宇治川の中州に浮かぶ中の島のほか、宇治公園、朝霧橋、宇治橋、宇治神社など風情をたたえています。2024年の大河ドラマ『光る君へ』により、観光等の機運が高まっています。

実施場所② **宇治市源氏物語ミュージアム**

紫式部が書いた源氏物語「五十四帖」のうち、最後の十帖の舞台となった宇治に1998年に開館。復元模型や映像の常設展示やテーマごとの企画展示等によって、源氏物語と平安時代の文化に親しむことができる世界で唯一のミュージアムです。

会場·環境

**源氏物語「宇治十帖（うじじゅうじょう）」とは？**
源氏物語「五十四帖」のうち、最後の十帖は宇治を主な舞台とするため、「宇治十帖」と呼ばれています。「宇治十帖」は、光源氏がなくなった後の物語で、光源氏の子とされる薫と孫の匂宮の2人の貴公子と、大君、中の君、浮舟という宇治の八の宮の姫君をめぐる恋模様が描かれています。

## 運営体制

主催・企画・広報
- 京都:Re-Search実行委員会（宇治部会）
- 京都府（文化芸術課／山城広域振興局企画・連携推進課）
- 宇治市（文化スポーツ課）

企画運営 ｜ MUZ ART PRODUCE
機材協力 ｜ キヤノンマーケティングジャパン株式会社
教材協力 ｜ KYOTOGRAPHIE
運営協力 ｜ 宇治写真協会

## 講師

**源氏物語「宇治十帖」レクチャー**



### 坪内淳仁

つぼうち・じゅんじ

宇治市源氏物語ミュージアム学芸員。2010年度より宇治市歴史資料館勤務、2015年度より現職。専門は日本近世史。企画展実施のほか、資料を中心とした対話型による小学校でのアウトリーチ（出前授業）や幼児と博物館敷地内の自然や展示資料を一緒に観察しながら探検する『ミュージアム探検』といった博学連携事業のほか、宇治の史跡巡りや手織り、火起こしなどを行う子ども体験型教室『しかぞすむー生きるいろはを源氏でもー』などの教育普及活動を実施。

**写真撮影技術レクチャー**



### 吉田亮人

よしだ・あきひと

写真家。1980年宮崎県生まれ。京都市在住。滋賀大学教育学部卒業後、タイで日本語教師として1年間勤務。帰国後小学校教員として6年間勤務。2010年より写真家として活動開始。広告や雑誌を中心に活動しながら、「働く人」や「生と死」をテーマに作品制作を行う。国内外での展覧会、出版物を刊行している。写真集出版レーベル「Three Books」の共同代表。日経ナショナルジオグラフィック写真賞2015・ピープル部門最優秀賞等受賞多数。

**写真鑑賞・撮影レクチャー**



### Marguerite Paget

マルグリット・パジェ

KYOTOGRAPHIEキッズプログラム統括。フランス出身。ソルボンヌ（パリ第4大学）で、歴史、ジャーナリズム、コミュニケーション学を専攻した。2005年より日本在住、コミュニケーションとカルチャーメディエーションを専門とし、2014年よりKYOTOGRAPHIE京都国際写真祭でPRインターナショナルコーディネーター、2017年からは子供のためのプログラム（ワークショップ、教育マニュアル、学校コンクール）も担当している。音楽とパフォーマンスのアーティスト集団N'SO KYOTOの共同創設者。

## 補助スタッフ

KYOTOGRAPHIE
キッズプログラム・スタッフ

**堂前佳穂** どうまえ・かほ

2023年よりKYOTOGRAPHIEキッズプログラムに従事、現在はプログラムマネージャーを務める。

**佐々木雄嗣** ささき・たけし

2022年よりKYOTOGRAPHIEの運営スタッフ、2023年にはキッズプログラムコーディネーターを務める。



## 写真ワークショップ

# わたしの宇治十帖

千年前に生まれた源氏物語「宇治十帖」を手がかりに、宇治ゆかりの歴史や古典文学を学び、“今ある宇治の魅力”を一緒に探る写真ワークショップを開催しました。宇治市源氏物語ミュージアムの学芸員や世界で活動する写真家から本格的なレクチャーを受け、ミラーレス一眼カメラを使った撮影に挑戦。過去と現在をタイムスリップしながら、源氏物語の舞台となった宇治の魅力を探しに市内に出かけました。

開催日・対象 ｜
2023年12月2日（土）／ 小学校1〜3年生
2023年12月3日（日）／ 小学校4〜6年生・中学生
2023年12月16日（土）／ 高校生以上（一般）
2023年12月17日（日）／ 小中学生の親子

時間 ｜ 各日12:30〜16:30
場所 ｜ 宇治市源氏物語ミュージアム・講座室および宇治市内
参加 ｜ 計106名（定員 合計140名）



### ① レクチャー

**源氏物語「宇治十帖」のストーリー解説、ミュージアム見学**

まずは、宇治市源氏物語ミュージアム学芸員の坪内淳仁氏による「宇治十帖」のあらすじと登場人物の紹介がありました。今とは違う宇治の様子などをユーモアを交えながら解説し、参加者が笑いに包まれる場面も。ミュージアム見学では、平安時代の宮廷の生活や文化、「宇治十帖」に出てくるシーンまで、当時の乗り物や建物、服装、香りなどの展示を通して、物語の様子を想像する手がかりを得られました。



### ② レクチャー　写真の見方、撮り方

KYOTOGRAPHIEキッズプログラム担当のマルグリット・パジェ氏に加え、堂前佳穂氏、佐々木雄嗣氏が、写真の見方や仕組みを解説。国内外の写真家の作品を交えながら、写真の構図や光、線、遠近法、視点など、写真の鑑賞や撮影のコツを学びました。写真を構成する要素や効果をひも解く解説によって、何気なく見ていた写真の見方が一気に変わったようです。

### ③ 実践　カメラの扱い方

写真家の吉田亮人氏が、ミラーレス一眼カメラを手に、カメラの扱い方、構え方、機能について解説。カメラを初めて手にしたという子どもたちは、シャッターボタンを押そうにも最初は不慣れでぎこちない様子でしたがすぐに習得。重厚なレンズがついた本格的なカメラに子どもたちの目がキラキラ輝いていました。



### ④ 実践　試し撮り

写真の見方、カメラの扱い方の解説を念頭に、試し撮りに挑戦。見学したばかりのミュージアムの至る所が被写体に変わりました。教わったばかりのピントやズームを工夫しながら、考え込んだり、とにかくたくさん撮ってみたり、シャッターチャンスを狙って待つ姿もみられ、ミュージアムの中や庭でシャッターを夢中で切っていました。



### ⑤ 合評　試し撮りの結果は！？

試し撮りした写真を数人が披露。プロジェクターで投影し、参加者の皆さんで意見交換。どこがおもしろいのか、講師の先生のどの話を意識して撮影したのか、撮り方も感じ方も様々。スクリーンに映した瞬間に「お～！」と感嘆の声が沸く写真もありました。



### ⑥ 実践　屋外撮影

いよいよミュージアムから外に出て撮影に挑戦。グループごとに宇治神社、宇治上神社、宇治橋、朝霧橋、中の島など「宇治十帖」ゆかりの地へ。宇治や源氏物語を思わせるキーワード「香り、水、風、恋愛、恨み…」をイメージしながら、それぞれの視点がカメラ越しに交差します。寒さや時間の経過も忘れて、日が暮れるまであちらこちらで「ピピッ」とピント音が響いていました。



## 参加者の声

### 感想

▶ 写真をミラーレス一眼で撮影できたことが良かった。今まではただ撮るだけだったけど、どうとったら良いか考えるようになった。（宇治市・小2）

▶ 「わからなくてもいいよ」「一緒にやろう！」の雰囲気に、息子（人見知り）も楽しめた様子です。これを機に写真をやってみたいと思わせていただきました。（宇治市・小2保護者）

▶ 先生たちにわかりやすく、具体的な見方、とり方を教えてもらったので、とても楽しかった。（宇治市・小5）

▶ 色々なアドバイスやご意見を丁ねいに優しく言ってもらい、とても参考にもなった。ふだんとは違う景色が見えてきて楽しかったです。（宇治市・小5）

▶ 外に出て写真をとることができて楽しかったです。グループの人とも仲良くなれて楽しかったです！！専門的な話もきくことができたので、これからに活かしていきたいと思います。（宇治市・中2）

▶ 今日のワークショップに参加してみて、源氏物語についてくわしく知ることができたし、宇治の風景をくわしく教えてもらった技法を使って本格カメラでとれたので、わくわくばかりで楽しかった！！（宇治市・中1）

▶ 写真をとりながら親子でコミュニケーションがとれよかったです。吉田先生からボケた写真の中にも良い物があるので消さないでと教えていただき見方が変わりました。（宇治市・40代親子参加）

▶ もっと子どもむけの内容と思っていましたが、大人でも大変学びのある内容で、また少し写真をちゃんとやってみたくなりました。（宇治市・30代親子参加）

### その魅力を広く知ってほしい、守っていきたい、地域づくりに活用したいと思う地域の文化資源

★ 茶畑（宇治市・小2）

★ 朝日焼（宇治市・小2）

★ 宇治橋（宇治市・小2）

★ 商店街（宇治市・小3）

★ 宇治市内の植物や鳥（宇治市・小6）

★ 今はない巨椋池（宇治市・高校生）

★ 三室戸寺、平等院、天ケ瀬ダム、桂川（宇治市・小4）

★ 菟道稚郎子（宇治市・60代）









展示

# 現代写真絵巻 みんなで宇治十帖



先に開催した写真ワークショップ『わたしの宇治十帖』に続き、宇治市内各所で展示を行いました。ワークショップの参加者106名による146点の写真作品は、公園や駅などの公共空間で展示され、市内各所を彩りました。参加者一人ひとりがカメラのファインダーを通じて捉えた“今伝えたい宇治の魅力”はまさに十人十色です。現代写真絵巻になぞらえて『みんなで宇治十帖』と題した本展示。各会場を巡ることで、物語と現実のはざまを渡り歩くように、歴史を紡ぐ宇治の魅力に触れてほしいという思いを込めて、各会場の展示を構成しました。

会期 ｜ 2024年1月19日（金）～2月18日（日）
会場 ｜ 宇治公園／JR宇治駅自由通路／京阪宇治駅地下通路／
宇治市源氏物語ミュージアム／
お茶と宇治のまち交流館「茶づな」／
JR宇治駅前観光案内所／
ギャラリーステップワン（ゆめりあうじ1階）

出品者数・出品作品数 ｜ 106名・146点
来場者数 ｜ 計46,700名

主催 ｜ 京都:Re-Search実行委員会（京都府、宇治市ほか）
企画運営 ｜ MUZ ART PRODUCE
機材協力 ｜ キヤノンマーケティングジャパン株式会社
教材協力 ｜ KYOTOGRAPHIE
運営協力 ｜ 宇治写真協会
施工 ｜ 有限会社スタジオアクア









## 写真展示

**A** 宇治公園

住所 | 宇治市宇治
時間 | 常時

**B** JR宇治駅自由通路

住所 | 宇治市宇治宇文字16
時間 | 常時

**C** 京阪宇治駅地下通路

住所 | 宇治市宇治乙方
時間 | 常時

## モニター展示

**D** 宇治市源氏物語ミュージアム

住所 | 宇治市宇治東内45-26
時間 | 9:00～17:00
（入館は16:30まで）
休館 | 月曜休館（祝日の場合は翌日）

**E** お茶と宇治のまち交流館「茶づな」

住所 | 宇治市莵道丸山203-1
時間 | 9:00～17:00
休館 | 年中無休

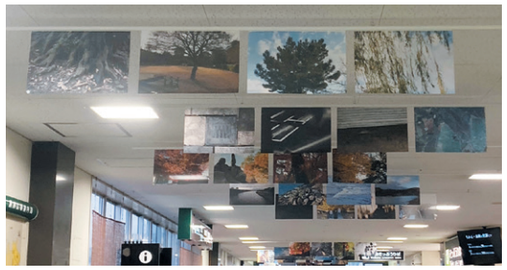
**F** ＪＲ宇治駅前観光案内所

住所 | 宇治市宇治里尻5-9
時間 | 9:00～17:00

## プロジェクト紹介

**G** ギャラリーステップワン
（ゆめりあうじ1階）

住所 | 宇治市宇治里尻5-9
会期 | 1月12日（金）～2月5日（月）
時間 | 9:00～22:00










## 宇治アートプロジェクト／展示　総括

本展示は、写真ワークショップ『わたしの宇治十帖』の参加者が各々に撮影した写真の中から、講師陣が選りすぐった146点を、3会場に分けて紹介しました。『みんなで宇治十帖』というタイトルが示す通り、一人ひとりが見つめた宇治の魅力が一体化した合作であり、写真展示のほか、モニター展示やプロジェクト紹介を含めて宇治市内7会場で広く公開しました。会場ごとに展示方法を変えたことも見所の1つです。宇治公園は、豊かな自然や宇治川に囲まれた中州とあって、源氏物語を手がかりに撮影された写真を介して、過去と現在、日常と物語が交差するにふさわしい環境でした。橘島全体にちりばめた作品をのぞき込んだり、高さ2メートル超えの展示壁を見上げたり、開放的な空間での鑑賞機会となりました。JR宇治駅自由通路は、布で仕立てた写真作品を絵巻風に設え、外光や風に揺らめく表情豊かな展示となり、観光客を迎える玄関口として、京阪宇治駅とともに見ごたえのある写真作品が並びました。公共空間での展示は、鑑賞者に向けた宇治の魅力発信のみならず、ワークショップ参加者にとっては、自ら表現することによる気付きや楽しさ、達成感を体感し、特に子どもたちの自信を引き出す機会にもつながりました。



## 来場者の声

### ✎感想

#### 展示来場者

▶ 子どもの写真と聞いて驚いた。写真の撮り方が工夫されていて、今後、自分が撮る時の参考にしたいと思った。（宇治市・70代）

▶ 宇治公園はいつも何もないので、こういう展示があると散歩が楽しくなる。またやって欲しい。（宇治市・不明）

▶ 小学生の作品がすばらしい。プロだと思った。（宇治市・不明）

▶ 写っている場所が宇治のどこだろうという目で見て楽しんでいる。（宇治市・60代）

#### 写真ワークショップ参加者

▶ 子どもも大人も楽しめました。親子で参加してとてもいい時間でした。（宇治市・40代）

▶ 地元でもあまり知らなかった宇治十帖を少しだけ理解でき楽しかった。（宇治市・60代）

▶ 子どものみで参加させていただいたのですが、他の方の作品も含めて展示されてる写真を家族で見に行き、ワークショップの様子を娘からたくさん聞く機会にもなり、とても楽しく参加させて頂いたようで、感謝しております。どの作品も、またその展示方法もとても素晴らしかったです。（宇治市・～10代保護者）

▶ 自分の撮った写真が飾ってあり、とても嬉しかったです。他の人の作品も素晴らしかったです。またぜひ参加したいです。（宇治市・～10代）

### その魅力を広く知ってほしい、守っていきたい、地域づくりに活用したいと思う地域の文化資源

★ 鵜飼の文化（大阪府・20代）

★ イチョウ並木、宇治川、桜など自然が豊か（宇治市・70代）

★ 恵心寺（宇治市・40代）

★ 茶園（宇治市・80代）

★ 興正寺、三室戸寺、萬福寺（宇治市・60代）

★ 宇治発電所（宇治市・50代）

★ 宇治の南玄関口から旧奈良街道～平城京（宇治市・70代）

★ あがた祭り（宇治市・40代）

★ お茶の歴史（宇治市・～10代）

★ 宇治商店街周辺（宇治市・40代）

★ 橋姫伝説（宇治市・50代）

★ お茶を通して、茶道の良さを伝えたいです。おいしい水、素敵な焼き物、もちろん美味しい抹茶、きれいな景色、たくさんたくさん茶道を通して宇治を発信したい。（宇治市・～10代）





アウトリーチ

# 次世代向け派遣事業

京都府では、子どもを対象とした文化芸術体験機会を拡充する取組として、教育機関や文化施設への派遣型アウトリーチを実施しています。今年度も引き続き、文化芸術団体やクリエイター等と協働し、普段は文化芸術に触れることの少ない地域における文化体験の機会を創出しました。



文化を未来に伝える次世代育み事業

## 地域・アート・出会いプロジェクト

京都府内の児童生徒に対し、質の高い文化・芸術を体感する機会を提供するプロジェクトです。児童の豊かな心を育成すると共に、京都の文化・芸術の振興と次世代への継承を図ることを目的としています。事業の実施対象は、主に京都府内の小中学校（京都市立は除く）、府立特別支援学校とし、文化芸術体験事業に携わる専門家を派遣しています。また、地域の魅力を再発見・継承を目的としたプログラムや、教材開発や指導に活用してもらうことを目的とした教員向けプログラムも実施しています。

主催・プログラムコーディネート ｜ 京都府（文化芸術課）
運営 ｜ 京都府（文化芸術課）／各学校
講師 ｜ 京都府の文化芸術団体およびクリエイター等

**2023年度の開講ジャンル一覧**

古典芸能 ｜ 落語・邦楽・能楽・狂言・囃子・日本舞踊
伝統工芸 ｜ ロウケツ染・竹工芸・陶芸
伝統文化 ｜ 香文化・着物文化・茶道・書道・いけばな
美　　術 ｜ 絵画・造形・ステンドグラス・日本画
音　　楽 ｜ 音楽基礎・合唱・歌劇（オペラ）・童べ歌・楽器（和太鼓、オカリナ、二胡、アフリカンドラム）
ダンス・演劇 ｜ ダンス・パントマイム・演劇・バレエ
　劇　　｜ 人形劇・影絵芝居
そ の 他 ｜ 映像・建築

## 体験プログラム

1回のプログラムから、複数回にわたる体験授業まで、授業時間内で実施しています。内容は、講師やコーディネーターが担当教員と相談をしながら、子どもたちの状況や実施目的に応じて決定します。

対象 ｜ 小学校・中学校・特別支援学校
実施件数（校数）｜ 小学校33件（24校）、中学校14件（12校）、特別支援学校15件（10校）



## 合同鑑賞プログラム

地域の文化施設やホールで行うプログラムです。近隣の学校が一緒に、能や舞台芸術などの合同鑑賞会を実施します。

対象 ｜ 小学校・中学校・特別支援学校
実施件数（校数）｜ 4件（9校）



## 地域とともに文化探求・発信プログラム

地域に根づいた文化を調査・体験し、発表をするまでを計画的に実践するプログラムです。

対象 ｜ 小学校・中学校・特別支援学校
実施件数（校数）｜ 5件（4校）



## 地域の伝統文化継承プログラム

祭りや郷土食など、地域の伝統文化を受け継ぐことを目的に、地元の保存会などと協力し、複数回継続した活動を行うプログラムです。

対象 ｜ 小学校・中学校・特別支援学校・高等学校
実施件数（校数）｜ 8件（8校）



## 教員向けプログラム

教員を対象にワークショップを行うプログラムです。教科単位の研修や校内研修などで、教材開発や指導に活用をしてもらうことを目的に実施します。

対象 ｜ 教員（小学校・中学校・特別支援学校・高等学校）
実施件数（校数）｜ 3件（3団体）





## Pickup



### 古典芸能 ｜ 落語の実技体験、発表

**亀岡市立大井小学校 × 桂米二**

大井小学校5年生61名が落語に挑戦。演目《道具屋》《動物園》等、3、4人のリレー形式で演じました。稽古中には、「（みえない部分）は想像するんや」と桂米二氏による指導のもと、子どもたちは表情や声の調子、しぐさや体の向き等で人物を演じ分け、他者に笑いを届ける落語体験を通して、日本の風習や話言葉の豊かさに触れる機会になっただけでなく、非認知能力の向上や、挑戦する自信にもつながりました。



### 音楽 ｜ 和太鼓と祈りの心

**京都府立井手やまぶき支援学校 × 藤本吉利／鼓童（派遣団体：（公財）京都府中丹文化事業団）**

井手やまぶき支援学校では、地域に向けた発表を目的に中学部46名が和太鼓を体験。はじめは自由奔放に叩いている子どもたちに、「バラバラにならないように、みんなで気持ちを合わせて」と真摯に声をかけ続ける藤本氏。徐々に音が重なり、みんなで音楽を演奏する体験は、回を重ねるごとに子どもたちを魅了しているようでした。



### 美術 ｜ "手とからだの冒険"不思議なアート体験と工作

**城陽市立富野小学校 × 東明**

特別支援学級33名が、東氏のオリジナル作品である着られるパラシュート《パラフーク》遊びを体験。提示された使い方だけでなく、自分なりの遊び方を工夫するなど、想像力を膨らませて参加する姿も見られました。また、オリジナル帽子づくり工作でも、見本に捉われずオリジナル性を発揮した作品づくりに取り組み、東氏がアート体験で大切だと語る「冒険心」を十二分に発揮していました。

### ダンス・演劇 ｜ バレエ鑑賞

**福知山市立成仁小学校 × 一般社団法人　京都バレエ団**

日頃、触れる機会が少ないバレエを成仁小学校の全校児童が鑑賞しました。《くるみ割り人形》や《眠れる森の美女》など、親しみやすいタイトルの上演だけでなく、バレエ体験もあり、踊りだけで物語が展開するバレエ表現の豊かさを体感するとともに、バレエダンサーたちの身体技能の凄さや美しさに感激し、バレエ鑑賞をきっかけに芸術に触れることへの関心も高まったようです。



### 伝統文化 ｜ 楽しく花をいけてみよう！

**宇治市立西大久保小学校 × 杉崎翠山／喜堂未生流・三代目家元（派遣団体：京都いけばな協会）**

西大久保小学校の2年生49名が、いけばなに挑戦しました。「お花を“生かす”ように。長く育てるつもりで生けてください」と講師の杉崎氏からのアドバイスに、児童たちは枝を手折る際の音に耳を傾けたり、香りを楽しんだり、切った茎を竹林に見立てたりと、自由な発想と感性で作品をつくり、自然の美しさを体感するいけばなに夢中になっていました。



### 伝統文化 ｜ 教員向け能楽講座

**京都府中学校教育研究会 音楽研究部 × 伝統音楽普及促進事業実行委員会（代表 河村晴久）**

府内の学校教員に向けた能楽の実技研修会を、京都市にある河村能舞台で実施。能楽師や囃子方の講師陣から、子どもたちが能楽に親しめるワークショップのレクチャーが行われました。また、能楽師（観世流シテ方）の河村氏が語った「戦ってはいけない」という能楽に込められた現代に通じる切実なメッセージを、教員の方々は、文化を愛した少年武将《敦盛》の物語をなぞりながら体感している様子でした。





## おわりに ｜ 編集後記

各地域内で展開した7つの事業と、82件のアーティスト派遣事業を終えました。多くの皆さま、という短い言葉だけでは戸惑うほど、多くの方々のご協力・ご参加・ご来場をいただき、無事に終えることができました。

各事業を府民の皆さまに届けるまでの過程には、たくさんの準備と調整がありました。その時間と工程をかけたからこそ、新たなモノゴトに出会う喜び、楽しさを、皆さんと共有できたのではないかと、冊子を編集するなかで感じています。

心惹かれたモノを分け合う。伝え合う。できるかぎり丁寧に。
そういった行為が、誰かと生きること＝社会を温かなものにしてくれるのではないか。

事業に関わっていただいたアーティストや芸能関係者などの、文化芸術事業者の方々が守り、培われてきた表現や視点、価値は、日常を健やかに、豊かに受け止める技術でもあります。そうして技術や価値、感性を分け合う取組が続くように、また、活力のある社会を皆さまと育てていけるように、本冊子にまとめました。そして、本事業を通じて出会った方々とのつながりが、モノやコトだけでなく、それらを生み出す「人」をも育む、温かな社会づくりになっていくことを願っています。

最後になりましたが、京都府地域文化創造促進事業へ、多大なるご支援、ご協力、ご関心を賜り厚く御礼申し上げます。

KYOTOHOOP・冊子編集担当
大賀由佳子（プログラムコーディネーター）

## チラシ・ポスターデザイン

### 丹後地域



















### 中丹地域










### 南丹地域







### 山城地域









## 掲載記事等

### Pickup

**『Kaico－参加型アートプロジェクト』**

2023年8月10日　朝日新聞「丹後の魅力　芸術で掘る　今月から住民参加イベント　ちりめん回廊拠点」
2023年8月15日　京都新聞「まち巡り　アート作品作ろう　丹後地域で初プロジェクト　18、19日と来月」
2023年8月17日　繊維ニュース「丹後織物産地　アートプロジェクト始動　布や糸で地元の魅力表現」
2023年9月10日　京都新聞「まちの魅力　布に表現　京丹後で体験型アート催し」
2023年9月14日　FM京都「海の京都DMO presents 7COLORS FANTASY ～UMI NO KYOTO～ 」出演

**キッズワークショップ『鳥笛で探す“音のなる不思議”』**

2023年10月10日　京都新聞「手作り鳥笛『面白い』竹で鳴き声再現　京都・宮津市で子供向けイベント」
2023年9月27日　読売新聞「鳥笛　作って鳴らす　8日宮津で体験会」

**『遠回りの仕方－準備編』**

2024年1月22日　京都新聞「芸術文化活動　地域で実践を　マネージャーが講演　舞鶴」

**『福知山イル未来と2023 ～夜をあそぶ～』**

2023年10月31日　両丹日日新聞「城に広がる幻想的な風景、家族連れらが楽しむ」
2023年11月1日　京都新聞「京都府福知山市の福知山城で光と音で彩るイベント　竹灯籠や流木アート…幻想的」
2023年11月1日　毎日新聞「魅力輝く、福知山城　12日まで「イル未来と」　土日祝、府内アーティストら演出　／京都」

**『アンサンブル探求基地～音楽家ヤニック・パジェ氏が奏でる 音楽×物理学×陶芸?! ～』**

2023年12月9日　京都新聞「来月演奏会、異色の共鳴　南丹の「八木酒造」」
2023年12月31日　読売新聞「南丹の元酒蔵で現代音楽味わう　18日～21日」
2024年1月11日　朝日新聞「コンサート「量子／QUANTUM（クォンタム）」」
2024年1月22日　京都新聞「瓶や木片で楽しく合奏　仏人音楽家、児童向け教室　南丹」
2024年1月30日　京都新聞「ガラス瓶やボウルでハーモニー　フランス人音楽家「普段使う物は何でも楽器に」京都・南丹」

**『アスレチック型コンサート～オーケストラで遊ぼう!～』**

2023年11月23日　洛タイ新報「城陽でコンサート　舞台上で演奏聴く「空気のふるえ感じて」
2023年11月24日～30日　KCN京都「週刊地域トピックス」

**『宇治アートプロジェクト』（写真ワークショップ『わたしの宇治十帖』／展示　現代写真絵巻『みんなで宇治十帖』）**

2023年12月18日　京都新聞「宇治十帖の舞台 撮影挑む　子ら物語に思いはせ」
2024年1月1日　洛タイ新報「文学背景と撮影術を学ぶ　写真で「わたしの宇治十帖」源氏物語ミュージアム　ミラーレス一眼にチャレンジ」
2024年1月9日　KBS京都ラジオ「京都トークRUN」
2024年1月20日　洛タイ新報「源氏物語の舞台を撮る／「現代写真絵巻・みんなで宇治十帖」」
2024年1月26日～2月1日　KCN京都「週刊地域トピックス」
2024年1月　JR西日本｜西Navi「2024年1月号」
2024年2月3日　京都新聞「宇治の魅力“写真絵巻”に　ワークショップ参加者ら撮影　市内各地146点展示」

**『次世代向け派遣事業』**

2024年1月25日　京都新聞「プロの指導で児童が落語に挑戦　京都府亀岡市の小学校、最後の発表へ特別な思い」
2024年2月5日　京都新聞「閉校まであとわずか、京都府亀岡市の小学校で児童ら落語を披露「本番に強い」プロの落語家も感心」

等

発行日 ｜ 2024年3月発行
発行 ｜ 京都:Re-Search実行委員会（京都府、他）
編集 ｜ 京都府文化生活部文化芸術課
表紙 ｜ KYOTOHOOPロゴ（三重野龍）
冊子デザイン ｜ 岸本昌也
印刷・製本 ｜ 株式会社グラフィック

発行｜京都:Re-Search実行委員会（京都府、ほか）

令和5年度文化庁文化芸術創造拠点形成事業

文化庁